

保護ヲ加ヘタコトヲ感謝シタ右ニ対シ本使ハ不取敢謝意ヲ述ヘテ置イタ

四五二 十一月二十六日

伊集院外務大臣ヨリ
在本邦白国大使宛

白国政府及ビ議會ノ震災同情表明ニ対シ感謝

ノ意伝達方依頼ノ件

欧二普通第六七号

以書翰致啓上候陳者貴国上下両院議長カ這次震災ニ関シ日本国民ニ対シ白国国民ノ懇篤ナル同情ヲ表示セラレ且ツ外務大臣 Jagger 氏カ白国政府ノ名ニ於テ右議會ノ表意ニ参加セラレシ趣今般貴国外務大臣ヨリ電報ニ接セラレシ旨本月十七日付貴翰第八四号ヲ以テ御通報相成致敬承候
本大臣ハ右貴国政府及議會ノ表示セラレタル同情ニ対シ帝國政府並国民ノ名ニ於テ茲ニ深厚ナル感謝ノ意ヲ表シ候条可然御伝達相成度此段申進旁々本大臣ハ茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候 敬具

四五三 十二月十五日

伊集院外務大臣ヨリ
在漢口林總領事宛

義捐金寄贈者ニ対シ謝意表明ノ件

八二号ノ通処理アリタシ)

前記ノ次第ハ口頭ニテ貴官ヨリ外交総長ニ内話シ支那人ノ被害ハ全然卷添のニ發生シタル次第ナルコトヲ十分ニ諒解セシムルト共ニ帝國政府ハ此種事件ノ發生ヲ深く遺憾トシ居ル次第ヲ申添ヘラレタシ
在支各領事ヘ転電アリタシ

四五五 九月十一日

在中国芳沢公使ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

在留中国人被害事件ニ付中国当局ニ内告ヲ見

合セ方意見具申ノ件

第八〇七号

(九月十二日接受)

貴電第五三一号在京支那人傷害事件支那側ニ内告方御訓令アリタル処右ノ如キ事件ハ非常困乱ノ際ニハ十分有リ勝ちノコトニシテ被害ノ程度モ輕微ナル様察セラレ未ダ当方面ニハ何等右ニ関スル報道ナク他日外間ニ洩ルルコトアリトスルモ如何様ニモ弁明ノ方法アルベク殊ニ御承知ノ通り顧外交総長ハ性質淡泊ナラヌ故此際本件ヲ内告スルモ当方ノ衷情ヲ諒トセザル而已ナラズ却テ之ヲ逆用スルヤモ計ラレズ旁々右御同感ナルニ於テハ本件内告ハ姑ク見合スコトト

亜一普通第一二〇号

漢口外国居留民会ヨリ義捐金寄贈ノ件ニ関シ十一月二十三日付公信第四五九号貴信(金券添付)ヲ以テ御報告ノ趣了承第一回分ノ釐金ニ対シテハ往電第八一号ヲ以テ謝意伝達方申進置候処今回ノ分ニ対シテモ同様本大臣ノ深厚ナル謝意伝達方可然御取計相成度此段為念申進候也

2 中国人等被害関係

五四四 九月八日

山本外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

在留中国人学生ノ誤認ニヨル被害ニ関シ中国

側ニ内告ノ上遺憾ノ意表明方訓令ノ件

第五三一号

上海宛往電合第一八二号ニ関シ

震災ノ際在留支那人中言語不通等ノ為鮮人ト誤認セラレ興奮セル市民ノ為危害ヲ加ヘラレ負傷セル者アルニ付(只今ノ処少数ノ見込)非常混乱ノ際ナルニ拘ラス関係官憲ニ於テ民間団体ト共力シ在留支那人ノ救恤及保護方ニ付特ニ最善ノ努力ヲ為シ居リ最早危険ナシ(以上上海宛往電合第一

致シタク貴方ニ於テモ支那側代表者ニ対シ何等本件ニ言及セラレザル様御配意アリタシ尤支那側ニ対シ何時弁明ノ必要生ズルヤモ計リ難キニ付兎ニ角被害ノ程度情况等詳細速ニ御電示アリタシ將又右ニ関連シ今回ノ変災ニ際シ他外国人ノ安否並ニ救助ノ状況等ハ相当報道多キ所支那人ノ状況並ニ救助ニ関シテハ伝ヘラルル処甚ダ少ナキハ当国人心ニ面白カラザル影響ヲ及スノ虞アリ後日前記傷害事件等ノ問題トナリタル時不利勘ナカラザルベント存ズルニ付テハ此際支那人救助ニ関スル報道ノ十分当方面ニ伝ヘラルル様特ニ御取計ヒアリタシ

四五六 九月十五日

山本外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

中国人被害状況ニ関スル情報通報並中国側ニ

対スル内話方再訓令ノ件

第五五五号 極秘

(上海宛往電合第一八二号鮮人被害事件ニ関スル情報ハ諸般ノ關係上極ク大体ニ止メタル次第ナルカ實際ノ状況ハ意外ニ重大ニシテ震災當時流言ニ誤ラレ極度ニ興奮セル民衆ノ鮮人ニ対スル迫害ハ極端ニ走り頗ル残忍ナル方法ニ依リ

殺害セラレタル者尠カラス本件善後策ニ付テハ追テ通報スヘキモ右殿ニ貴官限御含迄

(二)往電第五三一号支那人被害ノ件モ前記鮮人被害事件トノ関係上極ク大体ニ止メタル次第ナルカ被害事実ノ明瞭ナルモノハ震災当時日華学会所属留学生三名寄宿舎ニ立戻ル途上言語不通ノ為鮮人ト誤認セラレ民衆ノ為危害ヲ加ヘラレ(一名ハ稍重傷二名ハ輕傷ニテ間モナク全快セリ)其ノ際此等学生ト同行セル寄宿舎賄方タル一日本婦人カ頻リニ其ノ支那人タルコトヲ弁明セルニ却テ民衆ノ怒ヲ買ヒ均シク危害ヲ蒙ルニ至レリ此等負傷者ハ日華学会ト談合ノ上遺憾ナク医療手当ヲ為セリ

右被害事実ハ支那留学生間ニ周知ノ事実ナルニ付支那代理公使ニモ非公式ニ内話セルニ我官憲ノ罹災支那人救護ニ対スル懇切ナル措置ニ対シ頗ル満足シ居ル折柄能ク事情ヲ諒解シ其ノ当時ノ状況上其ノ已ムヲ得サリシ事情ト現ニ多数ノ日本人モ鮮人ト誤認セラレ危害ヲ受ケタル事実ト共ニ委細本國政府ニ報告スヘシト答ヘタリ前記被害以外ニ支那代理公使ハ一人ノ支那学生ハ頭部ヲ殴打セラレ尚一名ハ制縛ヲ受ケタル事実アルコトヲ聞込ミタリト内話セリ(實際ハ

前記以外ニ尚相当人数ノ支那人危害ヲ受ケタル情報アルモ其ノ点ハ殿ニ貴官限御含置アリタシ)

右様ノ次第ニ付日華学会所属留学生被害事件丈ハ不取敢往電第五三一号ノ趣旨ヲ体シ外交総長ニ卒直ニ内話シ其ノ応答振電報アリタシ

(三)罹災支那人六三五名内学生二三四名十五日芝浦出帆ノ千歳丸ニテ無賃ニテ上海ニ輸送セリ(委細上海ヨリ転電ス)右帰国者ニハ目下異常混雜ノ際ニモ拘ラス食事万端出来得ル限りノ世話ヲ為シタルモ或ハ種々ナル不平ヲ漏ス者アルヤモ難計ニ付貴官ニ於テ必要ト認メラレタル場合ニハ右ノ事情並罹災者救護方ニ付テハ万事支那代理公使ト打合ノ上実行シタルコト及此ノ際本國ニ輸送スルハ総テ帰国ヲ希望スル者ノミナルコトヲ外交総長ニ説明シ万一ニモ日本カ震災ヲ利用シ学生及商人等ヲ一併送還シタル等ノ誤解ノ生セサル様可然御措置アリタシ

四五七 九月二十九日 伊集院外務大臣ヨリ
在上海矢田總領事宛(電報)

中国人傷害事件及ビ留学生救護等ノ問題ニ関スル新聞論評並右ニ対スル措置振報告方訓令

ノ件

第一五五号

震災ノ際ニ於ケル鮮人殺傷事件及卷添のニ發生シタル少数ノ支那人傷害事件並大杉殺害事件等ハ追々支那方面ニ伝ハリ一部外字新聞及支那新聞ニ於テ論評セラレ居ル趣ノ処他面本省ニ於テ関係官庁及民間有力者ト協力シテ実行シタル支那留学生及商民ノ救護ハ相当支那側ニ好感ヲ与ヘタル模様ナリ以上諸問題ニ付支那諸新聞ノ論評中特ニ注意スヘキモノハ貴官ノ執ラレタル措置ト共ニ隨時大要ヲ電報シ詳細郵報アリタシ

右本大臣訓令トシテ北京及各領事ヘ転電アリタシ

四五八 十月三日 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

中国人傷害事件ニ関シ今後中国人ノ保護方ニ

一層留意アリタキ旨願外交総長ヨリ申出ノ件

第九〇四号 (十月四日接受)

十月一日外交総長ニ会見ノ際願ハ最近接到シタル情報ニ依レハ震災当時支那学生三名労働者六名暴行ヲ加ヘラレ内二名ハ重傷ニシテ右加害者ハ警団ナル由ナレハ今後支那人ノ

保護方ニ関シ一層注意ヲ加フル様日本政府ヘ電報アリタキ旨申出タルニ付右ノ報告ハ本使ノ手許ニモ達シ居ル処非常ノ際流言匪語盛ニ行ハレ就中一部朝鮮人ノ暴行ニ対シ極度ニ昂奮セル民衆ノ自衛的行動ノ結果偶々無辜ノ留学生等ニ波及シタルハ本使ノ頗ル遺憾トスル処ナルモ当時非常ノ事態ニ顧ミ是ヲ諒察セラレタク殊ニ官憲ノ罹災支那人救護ニ関シテハ可及的懇切ナル措置ヲ施シ現ニ当分就学ノ見込無キ多数ノ学生ハ態々汽船千歳丸ヲ仕立テテ無賃ニテ上海ニ輸送シ食事万端出来得ル限りノ世話ヲ為シタル心算ナリト打開ケタルニ対シ願ハ非常ノ際日本政府ノ執ラレタル支那人保護其ノ他ノ好意ハ十分ニ感謝シ居ル次第ナルモ施履本ヨリノ報告ニ依レハ支那学生及労働者ニ暴行ヲ加ヘタルハ普通ノ民衆ニ非スシテ警団ナル由ニ付今後ノ保護方ニ付特別ノ注意ヲ要請スル次第ニシテ尚詳細ノ報告ニ接シタル上何分ノ儀申出ツヘシト語リタルヲ以テ右早速本國政府ニ電報スヘキ旨答ヘ置キタリ願ハ右警団トハ警察吏ト解シ居タルモノノ如キモ自衛団ノコトナラスヤト思考セララル処果シテ然ラバ次回会見ノ節先方ノ誤解ヲ訂シ置キタキニ付何分ノ儀御電示ヲ請フ

四五九 十月三日

在蕪湖田中事務代理ヨリ
伊集院外務大臣宛

在留中国人被害状況ニ関スル新聞ノ報道振り

ト輿論ノ動向ニ関シ報告ノ件

機密第五一号

(十月二十日接受)

大正十二年十月三日

在蕪湖

領事館事務代理 田中 作(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

震災関係事件ト輿論ニ関シ報告ノ件

本件ニ関シ上海総領事宛第一五五号御訓電ノ次第有之不取敢拙電第九五号ヲ以テ及報告置候処鮮人及大杉殺害事件ニ関シテハ社説トシテ未ダ何等論評ヲ不見候得共客月二十一日日本ヨリ上海ニ帰着セル安徽省留学生ハ安徽留日被災学生団ノ名義ヲ以テ同地ヨリ当地各新聞社及全省同郷者宛左ノ如キ至急信ヲ寄セテ救助ヲ求メ該書信ノ全文ハ二十五日発行ノ各新聞紙ニ公表セラレ候

九月一日震災ニ繼グニ大火ヲ以テシ連焼三日東京繁盛ノ区域ハ尽ク焦土ト化シ死者十余万傷者数十万横浜ノ震災

程度ハ東京ニ比シ更ニ激烈ニシテ我が同胞ノ死亡者二千余人ノ多キニ達シ奇慘ノ極ヲ呈ス安徽留日学生ハ幸ニシテ皆生命恙ナキヲ以テ安心サレタシ

惟ダ震災未ダ息マラサル際ニ当リ適ハ鮮人放火ノ謠言起リ東京ノ秩序為ニ大ニ紊レ人心益々恐慌ヲ来セルガ該国在郷軍人及民衆ハ起ツテ青年団ヲ組織シ終日鮮人ヲ搜殺シ甚シキハ我が在留同胞及留学生ト偶々街間ニ遇フヤ即チ包囲シ指シテ鮮人ト誤称シ白刃ヲ振ヒ或ハ任意毆打シ再三弁解スルト雖モ毫モ肯カズ尚ホ毆辱ヲ敢テシ終ニハ牢獄ニ投ジ幾他ノ証明ヲ経テ始メテ釈放スル等同胞ノ痛苦名状スヘカラサルモノアリ王徳建・戴尚文等既ニ重傷ヲ受ケ復タ禁錮ニ遭ヒ安事農、朱亦愚等モ亦相繼イデ繋ガル其他王兆澄、葛昌明、方榮周、張勝球、鄭曙初、焦震、郝兆先等モ亦毆打包囲サレ張国良、祁雲竜、朱大猷等ハ震災ノ為負傷シタルガ均シク分別医治漸ク全癒シ現在我等多数同人ハ日華学会ノ救護ヲ蒙リ九月五日出發二十一日上海ニ帰着セリ却後ノ余生狼狽極マリ衣書行囊一トシテ所有スルナシ協濟ヲ希フ云々

右ハ素ヨリ只是レ救済ヲ求メンガ為メニ汲々タルノ余、徒

幾ンド不明ト認ムベキ左ノ如キ無稽極マル記事ヲ掲載致居候

日本在留同胞被慘殺者千余人

日災救済ノ支那人之ヲ聴ケ

今次日本震災ニ対シ我国朝野人士ハ人類友愛ノ同情及互助ノ良知ニ迫ラレ其軍閥政府我国侵略ノ深仇ヲ拋棄シテ一致以テ振救ヲ急謀シ相号召ス料ラザリキ天警未ダ息マラサルニ人復タ熾ナラント欲シ無政府主義者及思想界韓人ノ暴行ハ継続シテ吾人ノ目前ニ披露セラレタリ此種暴行ニハ日本国内ノ党人及復国ニ志アル韓人加ハリ居ルヲ以テ猶ホ法律ノ曲解ニ委スベキモ我が国人ハ一時日本ノ同情ヲ失フト雖モ以テ之ニ干渉スルノ術ナキ筈ナリ然ルニ狼子ノ野心本ヲ変ジ厲ヲ加フ我国今ヤ救助ヲ急謀スルト雖モ在留同胞ハ既ニ毒手ニ慘遇セリ我が在留同胞ハ違法ノ無政府党ニ非ズシテ更ニ亡国ノ韓人ニモ非ザルニ日本政府ノ無理残害恩ニ報ユルニ仇ヲ以テス実ニ人ヲシテ怒髮冠ヲ衝カシムルモノアリ茲ニ本社ノ東京來函ヲ披露スルコト下ノ如シ我が国人タルモノ宜シク振助ヲ停止シ速ニ此奇恥大仇ヲ雪ガンコトヲ切望ス

(東京来函) ニ曰ク震災発生ノ翌日(九月二日)日本当局忽チ謂フ支那人及韓人勾結シ地震ニ乗ジテ放火シ延焼東京横浜全市ニ及ブ云々ト此種無稽ノ罪名ニ根拠シ終ニ我国及韓人ニ対シ大惨殺ヲ加フ日本新聞ノ報道ニ拠レバ支那人及韓人ノ被害セラレタルモノ既ニ千人以上ニ達シ横浜ノ支那商人ハ幾ンド全部死亡(約四五千人)其他ノ外国人死亡者ハ甚ダ少シト試ニ一度ビ日本法定ヲ査スルニ我が国人及韓人ノ日本入国者ハ先ヅ海関ニ於テ嚴重ナル検査ヲ受ケ更ニ旅館ニ入ルノ際亦警察ノ監視ヲ受クルヲ要ス地震忽然発生ノ際ニ当リ何処ヨリ爆弾其他引火物ノ来リ得ベキゾ然ルニ新聞紙ハ爆弾ヲ用ヒ放火スト謂フ是レ罪状ヲ虚造シ敢テ惨殺ヲ肆ニセントスル意タルヤ明ナリ我が国人ヲ以テ幾ンド韓人ト同一地位ニ居ルモノト見做セルニ我国尚ホ日本震災ニ対シ振助ヲ思フ太ダ寛厚ヲ免レサル矣又横浜方面ニ於ケル其他外国人十九名ハ無事避難セルニ支那人ハ何故独リ多ク難ニ遇ヘルヤ必ズ日本人ガ殺戮ヲ加ヘタルカ或ハ救援ヲ与ヘサリシノ致ス所ニ係ル今ヤ横浜在留ノ同胞商ヲシテ幾ンド全滅ニ等シカラシム我国ノ日本在留商人ノ勢力之ヨリ断根サレン我が

震災情報ヲ伝ヘタル当地新聞論調報告ノ件

第二六五号

(十月六日接受)

震災ノ第一報ニ接シテヨリ新銘号並支那赤十字社救護班ノ出發迄ノ約一週間ハ当地ノ支那新聞何レモ紙面ノ少カラサル部分ヲ割キテ震災ノ報道ニ費スト同時ニ一般ノ同情アル論説ヲ掲ケテ輿論ノ喚起ニ努メル処アリタルカ避難者ノ弗弗当地ニ帰着シ始メタル九月十日前後ヨリ事実ヲ誇張シタル報道無形ノ風説ヲ交ヘタル通信若クハ(脱)

(一)日本カ震災ニ乗シ在留支那人ヲ虐待シタリトノ説果シテ真ナリトセハ日本ハ世界中ノ最モ残忍ナル民族ト云ハサル可ラス

(二)果シテ鮮人ノ暴挙ニ連累セラレタルモノトセハ幾分恕スヘシトスルモ同時ニ日本カ平素鮮人ヲ虐待シ居ルノ証左ヲ世界ニ公表セルモノナリ

(三)支那人ヲ虐待シタル青年団ノ処為ニ付政府ハ責ヲ負ハサルヘカラス等ノ論評ヲ敢テスルモノアリシモ震災ニ対スル一般ノ同情盛ナル折柄当地ノ二大新聞タル公報ト新聞報トカ冷静ノ態度ヲ持シ論評ヲ避ケタル為多クノ反響ヲ惹起スルニ至ラス次テ当地ニ入港シタル千歳丸送還ノ避難学生並

国民斯ノ如キ残忍險辣ノ日本人ニ対シ尚ホ能ク同情援助ヲ与ヘントスルカ支那ト日本ハ素ト不可解ノ仇隙アリ今次震災ニ対シ我國ノ救助ヲ急謀スル所以ハ素ト寛大仁慈ノ国民性ヲ世界ニ表現シ又此機会ニ乗ジ日本政府侵略ノ迷夢ヲ醒サシメ以テ支日間毎年ノ嫌怨ヲ解カント欲セルナリ然ルニ日本ノ好殺既ニ性ヲ成シ天警ニ遇フト雖モ良心ノ滅没故ノ如ク惡念且ツ以テ例外ノ膨漲ヲ見ルニ至ル我が国人ノ心跡既ニ明ナリ大ニ其道ニ反シテ之ヲ行フベク必ズシモ虎狼ト感化ヲ談ゼザルモ可ナリ矣

尚ホ同紙ハ旅大還付及二十一ヶ条取消ニ関シ日本ハ震災ニ依ル教訓ニ因リ自働的ニ還付取消ヲ為サントスル消息伝来スト説キ居リ候右等記事ニ関シ今後モ輿論ノ趨勢如何ニ充分留意シ誤解一掃ノ為メ適當ノ措置ヲ執ル考ニ有之候尚ホ避難支那人救護状況等ニ関シテハ受電ノ都度直ニ交渉員ニ通報シ新聞紙ニ公表セシメ居候処交渉員ハ帝國政府ノ好意ヲ感謝スル旨述べ其他一般官民ニモ相当好意ヲ与ヘ居ルモノノ如ク被認候此段報告申進候 敬具

本信写送付先 在支公使

四六〇 十月五日 在上海矢田總領事ヨリ 伊集院外務大臣宛(電報)

曩ニ日本ニ於テ虐待ヲ受ケタル支那側救済委員等ノ帰來談若クハ通信ニ依リ我朝野ノ支那人救護措置ノ真相漸ク明カトナリ加フルニ本官ノ支那側救済団体ト絶エス接触ヲ保チツツ隨時取り来レル諸般ノ臨機ノ措置並当館ヨリ支那側救済団体ノ手ヲ經テ各新聞等ニ供給セシメ居リタル我方ニ有利ナル隨時ノ情報、水野ノ活動等モ手伝ヒ一部支那人ノ疑念モ漸次薄ラキ政府送還船ノ來航回ヲ重ネル毎ニ自然我方ニ有利ナル形勢トナリ大杉殺害事件ニ付テモ一、二ノ新聞カ法治国タル日本ノ一大汚点ナリト論シタル外差シタル反響モナク中国義賑会ハ貴大臣宛謝電(往電第二五二号並貴電第一五八号参照)ヲ發シ又二十八日当地中華教育団日災救済会ハ東方情報第七三三号後段要領ノ公平ナル觀察ヲ基礎トセル長文ノ宣言書ヲ公ニシ次テ本月四日同会ハ更ニ震災ト日本側ノ支那人救護慰問等ニ関スル諸般ノ実状ヲ詳述シタル第一回報告(全文訳文ト共ニ郵送スヘシ)ヲ公ニスルニ至レリ要スルニ支那避難民ニ対シテ採ラレタル我方ノ措置ハ最モ機宜ニ適シ当方面一般ノ形勢ヲ良好ナラシムルニ与テ力アリタルモノト觀察セラル

四六一 十月八日 伊集院外務大臣ヨリ
在中國芳沢公使宛(電報)

顧外交総長ト会談ノ際予テ訓令ノ次第ヲ先方
ニ伝ヘタルヤ否ヤ念ノ為メ問合せノ件

第六三一号

支那人傷害事件ニ関シ外交総長ニ内話方九月八日往電第五
三一号ヲ以テ逸早く申進シタルニ対シ貴電第八〇七号ヲ以
テ顧維鈞ノ性格等ヲ理由トシ内告見合方電稟アリタルモ事
態相当發展スルニ至ルヘキヲ慮リ往電第五五五号ヲ以テ具
体的事実ヲ挙ケ率直ニ外交総長ニ内話シ応答振電報方訓令
シ置キタルニ今回貴電第九〇四号ニ依レハ貴官ニ於テ右訓
令ヲ執行セラレサル間ニ十月一日外交総長ヨリ切出シタル
次第ト認メラルル処同日応答ノ際貴官ヨリ予テ通報シ置キ
タル事項中(一)多数ノ日本人モ鮮人ト誤マラレ傷害ヲ受ケタ
ルコト(二)日華学会支那留学生ト同行セル日本婦人モ彼等ヲ
庇護セムトセル為傷害ヲ受ケタルコト(三)政府ニ於テ支那人
救護ニ最善ノ努力ヲ為シ疾ニ何等危険ナキニ至レルコト等
ヲ詳細説明セラレタルヤ為念電報アリタシ將又施履本ノ所
謂警団トハ自衛団又ハ自警団ヲ指ス趣旨ナルヘキコト毫モ

候 敬具

本信写送付先 在支公使

(付属書)

華工殺傷事件ニ関スル王兆澄談話要領

問、君ハ日本ヨリ帰国ヲ阻止セラレサリシヤ

答、余ハ日本警察ノ注意人物ナリシヲ以テ今回山城丸ニテ
帰国ニ際シテハ変装シテ労働者ニ混入シ僅カニ其目的
ヲ達スルヲ得タリ

問、新聞所載負傷労働者ノ調査ハ如何ナル標準ニ依リシヤ

答、本人ノ負傷状態若クハ第三者ノ目撃状況ト其証明ヲ本
ニセルモノナレハ確實ナリ

問、負傷労働者ハ其証拠ヲ有シ居ルヤ

答、証拠ハ固ヨリ少カラス問題発生ノ時ヨリ既ニ一月以上
ヲ経過セル今日ノ調査ニテスラ負傷者数百人ニ達シ居
ルコトニテ大体想像シ得ヘシ只日本ノ警察ハ罪過ヲ掩
ハンカ為メニ頻リト証拠ノ湮滅ヲ図リツツアリ余モ日
本ニ於テ暴徒ノ為メニ鉄器ヲ以テ撃傷セラレタルカ其
当時ノ血跡淋漓タル衣服ヲ其儘保存シ居レリ将来ノ鉄
証タルヘシ

疑ノ余地ナク實際今日迄判明シタル事例ニ依レハ警察吏カ
支那人ニ傷害ヲ加ヘタルコト絶対ニ無之当地支那公使館ハ
勿論支那人間ニ於テモ左ル風評ヲナシ居ル者ナシ尚自衛団
又ハ自警団ナルモノハ最近ニ至リ警視庁ニ於テ多少取締ヲ
為シ得ルニ至レルモ震災直後ニ於テハ興奮セル民衆ノ勝手
ニ造リタルモノニテ何等ノ組織系統モナク恣ニ行動セルモ
ノナリ

四六二 十月十七日 在上海矢田総領事ヨリ
伊集院外務大臣宛

華工殺傷事件ニ関スル王兆澄談話報告ノ件

付属書 右王兆澄談話要領

公信第九二六号

(十月三十日接受)

大正十二年十月十七日

在上海

総領事 矢田 七太郎(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

十六日ノ時事新報ニ掲載セラレタル王兆澄ノ同社記者ニ対
シテ為シタル所謂華工殺傷事件ニ関スル談話要領別紙ノ通
リニ有之御参考迄ニ及訳送候間御閱読相成度此段報告申進

問、負傷労働者ノ当地ニ居ルモノアルヤ

答、黄子連ナルモノアリ同人ハ九月三日大島町八丁目林安
吉棧ニテ軍警ラシキ日本人ノ為ニ刀ニテ頭部及右耳ヲ
傷ケラレタルカ同人ノ語ル処ニ依レハ九月三日多数ノ
日本人右中国旅館ニ来リ多数中国人ヲ付近ノ空地ニ誘
ヒ出シ更ニ地震アルヘシト欺キ強テ地上ニ伏セシメ二
百余名ヲ殺傷セリ同人モ其中ニ在リシカ夜間暴徒退散
ノ機ニ乗シ死屍ノ裡ヨリ爬出シ辛フシテ逃レタルカ五
日七丁目ノ空屋ニ於テ又復暴徒ノ殴打ニ遭ヒ警官ニ連
レラレ小松川警察署ニ往キ同処ヨリ更ラニ陸軍ノ保護
ヲ受ケ千葉習志野ニ護送セラレタルカ此時同伴ハ何レ
モ行方不明トナレル趣ナリ

問、收容中国労働者ニ対スル日本官憲ノ待遇振リ如何

答、余ハ現場ヲ实地視察シタルカ中国労働者ハ鮮人ト共ニ
一大兵營ニ收容セラレタルカ皆日人ノ待遇ニ甚タ不満
ヲ抱キ居タリ労働者ノ寝具ハ何レモ各自携帯セルモノ
ニテ彼等ニ給与セララルル食糧ハ粗悪ナルノミナラス空
腹ヲ満スニ足ラス而モ自ラ食物ヲ購ヒ食シ或ハ所持ノ
米ヲ炊事スルトキハ日本兵之ヲ殴打シタリ

特ニ労働者ノ信書ハ嚴重ニ検査セラレ確實ナル情報ハ
総テ銷毀セラレタリ

以上ハ労働者ノ親シク余ニ語りタル処ナレハ比較的信
スルニ足ルモノナリ

問、水野氏ノ宣言ニ対シ貴見如何

答、余ハ遭難者ノ一人ナレハ見聞スル処比較的確実ナリ此
次震災ニ於ケル日本国民ノ好意ハ衷心感謝スル処ナル
モ水野氏ノ宣言ニ対シテハ一言ナキ能ハサルナリ彼ノ
要求スル証拠ヲ集ムルコト容易ナレトモ日本当局カ其
証拠ヲ湮滅セントスル態度ハ誠ニ遺憾ニ堪ヘス殊ニ亀
井戸警察署ノ中国労働者ニ対スル虐待ト暴行ハ社会治
安ノ維持ニ当ル警察ノ行為トシテ其意外ナルニ失望セ
サル能ハサルナリ

四六三 十月十八日

在上海矢田総領事ヨリ
伊集院外務大臣宛

王兆澄ノ公表セル王希天被害説ニ関スル調査

訳報ノ件

付属書 王希天被害説ニ関スル調査(和訳文)

公信第九二七号

(十月三十日接受)

明テアルノミナラス支那労働者トノ面談モ許サレナカツタ
ノテ余ハ悄然トシテ帰寓シタ

十四日以後ハ日華学会・救世軍・友人丸山伝太郎・加藤定
吉・服部博士氏等ニ頼ンテ外務省警視庁ニ付取調ヘテ貫ッ
タカ外務省ノ調査テハ王カ九日朝大島町ニ来タノヲ共済会
向フ隣リノ家人カ見タトノコトテアツテ自分カ調査シタ処
ト同シテアツタ警視庁ノ調査テハ王ハ警視庁管内ニハ居ナ
イ習志野ニ居ルカモ知レナイト云フ話テアツタ十八日余ハ
再ヒ亀井戸警察署ニ往テ尋ネタカ高等係蜂須賀ノ話テハ誰
カ王カ大島町ニ来タノヲ見タカモ知レンカ警察側テハ何ニ
モ知ラナイトノ事テアツタ二十九日余ハ支那公使館秘書錢
氏日本外務省警視庁憲兵司令部等ノ職員ト一緒ニ自動車テ
習志野兵營ニ行キ調査シタカ更ニ消息カ判明シナカツタ尤
モ十八日余ハ二度目ニ大島町ニ行ツタ際一丁目テ日本人工
頭ノ佐藤ナル者ニ遭タ其時同人ノ話テハ九月九日午前十一
時頃午之橋辺テ王カ亀井戸署ノ方カラ徒歩テヤツテ来タノ
ヲ見テ同人ハ連レノ友人ニアノ男カ共済会ノ親分タト話シ
タサウタ尚佐藤ノ話テハ日本人工頭等ハ誰一人トシテ王ヲ
憎マナイ者ハナイサウテアル何故ナレハ王ハ平常支那人勞

大正十二年十月十八日

在上海

総領事 矢田 七太郎(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

王兆澄ノ公表セル「王希天被害説ニ関スル調査」別紙訳文
ノ通ニ有之右及御送付候間御閱読相成度此段報告申進候

敬具

本信写送付先 在支公使

(付属書)

王希天被害説ニ関スル調査(和訳文)

王希天ハ九月九日午前八時牛込区鶴巻町二二番地ノ寓所
ヲ出テ大塚町一三三八号ノ自転車テ華工慰問ノ為大島町共
済会事務所ニ赴イタカ同夜同宿ノ友人王君カラ王希天カ未
タ帰宅シテ居ナイコトヲ聞イタノテ大變驚キ余ハ十日朝大
島町ノ共済会事務所ヘ往ツテ隣リノ家人ニ王ノ消息ヲ尋ネ
タ処カ王ハ事務所ヘ来タトノコトテアツタ旋テ製糖会社内
憲兵司令部及亀井戸警察署ニ往ツテ聞イテ見タ処カ何レモ
来ナカツタト云フ答ヘテアツタ只警察署テハ習志野ニ往ツ
テ聞タラ或イハワカルカモ知レナイト云フコトテアツタカ
ラ十三日汽車テ習志野ニ赴キ王ノ所在ヲ尋ネタカ矢張り不

働者ニ援助ヲ与ヘテ居リ共済会ノ事務員中ニハ日本人ナク
又日本人工頭ノ云フコトヲ一向聴カナイカラタ今尚不明ト
云フカラニハ多分危険ナ境遇ニ居ルタラフ殊ニ府下テハ鮮
人カ殴打セラレタト云フ風説ハ市内以上ニハケシク今度支
那人労働者カ二百人以上モ打殺サレタト云フコトテ支那人
労働者ノミヲ使ツテ居タ日本人工頭中林某ハ殺サレ他ノ三
名ハ行方不明テアルトノコトテアルカラ。其後余ハ共済会
事務所ノ家主遠山氏カラ聞クトコロニヨルト九月九日正午
王ハ一旦寓居ニ帰ツタカ別ニ話トテ何ニモナク一寸挨拶シ
タ位テアツタ

王希天ハ其時兵營ニ行ツテ中国労働者ニ会フト云ツテ居タ
サウタ又アル支那人労働者王耀明ノ云フトコロニ依レハ同
人ハ九月九日午後四時頃鶴見カラ東京ニ来タカ大島町二丁
目辺テ憲兵ニ捉ヘラレ亀井戸郵便局隣リノ憲兵司令部ニ送
ラレタ其時同人ハ王希天モ亦其処ニ拘禁セラレ居リ且又王
カ十一円ノ金ヲ手ニシテ支那ヘ電報ヲ打ツト云ツテ居ルノ
ヲ見タカ憲兵ハ之ヲ許サナイテ其金ヲ取り上ケテ了ツタノ
ヲ見タトノコトテアル十日早朝ニ至リ王耀明ハ憲兵ノ為メ
習志野ニ押送セラレタカ王希天ハ其時一諸テハナカツタサ

ウテアル王君ノ云フトコロニ依レハ一人ノ支那商人伍銘鐘ナル者九月十日午前十一時名古屋カラ東京ニ着イタカ大島町共済会事務所テ一日本ノ歩兵ニ捕ヘラレ午之橋附近ノ支那人労働者臨時収容処ニ送ラレ同処テ身体検査ヲ受ケタ後更ニ亀井戸憲兵司令部ニ押送サレタカ午後五時頃王希天モ其処ニ拘禁サレテ居ルノヲ見タソウテアル同人ハ王ト共ニ亀井戸署ニ押送サレタトノ事テアルカ其節伍ハ王ニ君ハ何ウシテ此処ニ来タノカト聞イタラ王ハ仕方カナイト答エタ君ハ何時カラ此処ニ拘禁サレタソト尋ネタラ九日ニ拘禁サレタノタト答エタ斯シタ話ヲシテ居ルト護衛警官ニ談話ヲサシ止メラレタ十一日朝王希天ハ伍ニ向ヒ我々ハ千葉ニ押送サレルサウタ然シ心配シ給フナト云ツタ一同朝食カ終ルト警官カ来テ御前達ヲ千葉ニ送ルト告ケタ其時王希天ハ何時頃テスカト尋ネタラ午餐後タト云フタ午後ニナツテ遂ニ支那人労働者十五名ハ隊伍ヲ組ンテ警察署ヲ出発シタカ此時王希天ハ自転車ヲ劉国先ニ持タセ区役所ニ行キ自分ハ労働者ノ事テ用事カアルカラ千葉ニ行ク訳ニハイカナイト云ツタノヲ聞イタ

ソコテ王ハ残サレ其他ノ者ハ皆千葉ニ押送サレタ此時労働

者任俊銘ハ王ノ着テ居ツタ衣服ハ寓居ヲ出掛ケル時着テ居タノト同シモノテアツタノヲ見タトノコトテアル又労働者周敏書ノ云フトコロニ依レハ九月十一日三河島カラ大島町友人ヲ訪問ニ行ツタ時其処ノ警察ニ捉ヘラレ拘禁サレ其際王モ亦拘禁サレテ居ルノヲ見タカ十二日午前三時制服ヲ着刀ヲ手ニ持ツタ二人ノ兵士カ麻綱テ王ヲ細ツテ居ルノヲ見タ其時王ハ非常ニ苦シカツテ兵士ニ向テ少シ緩ルメテ呉レト頼ンタカ兵ハ聴カス之ヲ外ヘ押シ出シ何処ヘカ押送シテシマツタソウテアル

以上種々ノ報告ヲ綜合シテ見ルニ前後ノ事実ハ極テ明瞭テアル爾来外務省警視庁憲兵司令部ニ調査シテ貰ツテルカ今尚少シモ要領ヲ得ナイ処カラ見レハ王希天ノハ或ハ残殺サレタノテアルカモ知レナイ

四六四 十月十八日 在米国壇原大使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

震災時ニ於ケル朝鮮人虐待問題ノ排日派ニ利用セラルルヲ予防スル為政府ヨリ真相発表ノ必要ヲ申進ノ件

第六六八号 (十月二十日接受)

震災ノ際ニ於ケル朝鮮人虐待問題ハ今日迄ノ処当国ニ於ケル新聞其他一般ノ注意ヲ惹クニ至ラザルモ種々ノ方面ヨリ聞込ムトコロニ抛レバ在本邦朝鮮人ヨリ当国ニ於ケル鮮人及鮮人同情者ニ宛テ這回ノ鮮人虐殺ハ日本官憲ガ計画ノ上実行シタルモノニシテ即チ鮮人ヲシテ暴行ニ出デシメ之ヲ口実トシテ虐殺ヲ行ヒタルモノナリト言フガ如キ通信ヲ為スモノアル由目下当国一般ノ我災厄ニ対スル同情熾ナルガ故ニ仮令右ノ如キ通信ヲ材料トシテ宣伝ヲ為サムトスルモノアリテモ格別ノ効果ナカルベキモ右同情ノ漸次冷却スルト共ニ斯ル通信ハ又々排日者流ニ利用セラルル虞アルニ付此際東京ニ於テ政府ヨリ速ニ事件ノ真相ヲ詳細ニ発表シ流言誣説ヲ一掃セラルルコト必要ト思考ス

右ハ貴電合第二六七号ノ次第モアリ既ニ御準備中ト存ズルモ為念

猶大杉事件ニ就テハ最近在市俄古領事発……大臣宛電報第四八号上海……以外別ニ通信ヲ見ザルモ当国新聞ニ於テハ此種事件ニ就キ我政府ガ殊更ニ事実ヲ隠蔽セムガ為必要以上ニ通信検閲ヲ嚴重ニシ居ルニアラズヤト疑ヒ内々不平ヲ洩ラス向アル趣ナルガ右ハ戒嚴ノ関係上一時已ムヲ得ザル

事情ノ存スルコトナルベキモ之ガ為新聞界ノ反感ヲ招クガ如キハ成ルベク避クルコト得策ト思考スルニ付事情許ス限リ速ニ通信ノ自由ヲ与フル様御配慮アラムコトヲ希望ス猶在本邦外国通信員中ニハ災害ノ実況救護其他善後ノ措置計画等ニ関シ世界ノ知ラムトスル事実ノ通信ニ就キテモ必要ノ便宜ト自由ヲ与ヘラレズ右ハ結局日本ノ為ニモ不利ナリトノ批評ヲ為スモノアル趣為念

註 本電報告内容左ノ通り

十三日夕刊「シカゴ・デリー・ニュース」ハ上海特電トシテ概要左ノ記事ヲ掲ケタリ

東京ニ於テ大杉等ノ一派ハ地震ノ混乱ニ乘シ労働政府樹立ヲ宣言シ労働者ヲ集メ大示威運動ヲ為セル為メ国家ノ安寧ヲ害スルモノト認メラレ其住宅ニ於テ一憲兵ノ為銃殺セラレタルカ該憲兵カ上官ノ命ナクシテ右ノ行動ニ出テタリトハ信スル能ハス

四六五 十月二十日 在上海矢田總領事ヨリ
伊集院外務大臣宛

中国人労働者惨殺説ニ対スル当地漢字新聞論

調報告ノ件

付属書 中国人労働者惨殺説ニ対スル漢字新聞論

公信第九三四号 (十一月二日接受)

大正十二年十月二十日

在上海

総領事 矢田 七太郎(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

支那人労働者残殺説ニ対スル当地漢字新聞論調報告ノ件

本月十二日温州労働者六十二名及共済会幹事長王兆澄ノ帰国ニ依リ支那人労働者残殺及王希天行方不明ノ説伝ヘラルルヤ翌十三日新聞報カ「日本人ノ華僑虐待ヲ憤ル」ト題シ攻撃的論評ヲ加ヘタルヲ始トシ続イテ民国日報商報及中華新報ハ何レモ責任ヲ日本当局ニ問ハサルヘカラスト論シ或ハ一部商報ノ如キハ此ヲ排日宣伝ニ利用セントスルカ如キ論評ヲ掲ケ候間別紙ノ通り各々要略及報告候条御査閲相成度此段申進候 敬具

本信写送付先 在支公使

(付屬書)

中国人労働者惨殺説ニ対スル漢字新聞論調

十三日新聞報ハ「日人ノ華工虐待ヲ憤ル」ト題シテ曰ク地震ハ天災テアツテ人力ノ及ハサル処テアルカラ譬ヘ死

所以テアル

十四日民国日報ハ「日人華工ヲ残殺ス」ト題シテ曰ク

日本電報ハ甘粕、大島町事件ノ外ニ或ル国際的大問題ノアルコトヲ報シテ居ルカ吾々ハ多分支那ニ関係シタ事件タラウト想像スルノテアル

現ニ支那人労働者三百名ノ残殺ト七八百名ノ拘禁事実カ暴露サレタカ日本当局ノ発表ヲ禁止シテ居ルト云フ国際的大問題ハ此ノ事ヲ指スノテアラウ

震災当時ハ秩序全ク破壊セラレタノテ万仕方ナイト云ヘハ其レマテタカソシナラ何セ支那ノ内乱ニ依ル一切ノ外交問題ヲ各国ハ此ト同様諒トシナイノカ吾々ハ当然責任ヲ問ヒ今後日本ニ在ル華僑ノ生命ト財産ノ保証トヲ要求セネハナラヌ

十六日中華新報ハ「日人ノ華僑残殺ト我國民ノ注目スヘキ点」ト題シテ曰ク華工残殺ノ消息ヲ聞クニ及ヒ実ニ憤慨ニ堪ヘナイ次第テアルカ先ツ吾々ハ左ノ事項ヲ探究スヘキテアル

(一)日本無頼漢ノ暴行ハ果シテ支那人ニノミ行ハレタルモノカ何ウカ

傷者幾万アラウト損害ノ程度カ如何ニ大キカラウト只此レ運命テ致方ノナイコトテアル処カ帰国労働者ノ報告ニ拠レハ支那人ノ死ハ天災ノ為ト云フヨリハ寧ロ人禍ノ為タト云フ無頼漢ハ兎ニ角警察カ無辜ノ支那人労働者ヲ拘禁虐待シタト云フニ至ツテハ吾々ハ何ウシテ黙ツテ居ラレヤウカ避難民ノ云フ処或ハ余リニ誇張のカモ知ラン然シ震災当時戒嚴ノ名ノ下ニ暴行カ行ハレタト云フコトハ電通社ノ報シタ動カスヘカラサル事実テアル勿論問題カ大キイタケ充分調査ノ必要ハアルカ責任アル処ヲ徹底的ニ問ハナクテハナラン

十五日商報ハ「郵隣ト抵貨」ト題シテ曰ク

恤災ト抵貨トハ別問題テアル已ニ市民大会ハ此主旨ヲ宣言シタノテアルカ日災救援ノ声ト共ニ抵貨熱ハ日ニ衰ヘ今ハ終ヲ告クルカノ感カアル某日本汽船会社等ハ抵貨風潮ノ盛シナ頃ハ殆ト營業停止ノ已ムナキ状態ニ陥ツタノテアルカ今ハ旧状ヲ回復シ日ニ發展ノ域ニ向ツテ居ル今更ノ様ニ吾々ハ所謂抵貨運動ノ不徹底ニ失望セサルヲ得ナイ而モ数百余ノ同胞カ日人ニ残殺セラレタト云フニモ拘ハラス徒ニ自分ヲ忘レテ他ヲ救フトスルハ自滅ニ導ク

(二)其暴行ハ何者カノ使曠ニ依ツタ証跡カナイカ何ウカ而シ日本当局ハ今以テ何等ノ制裁ヲ加ヘナイカ何ウカ当局ハ此暴行ヲ未然ニ防止シ得ナカツタト云フコトハ別問題トシテ事後之ヲ不問ニ付シ有耶無耶ニ葬ラウトシタノヲ見レハ確ニ華工虐殺ノ意思ハアツタモノト思ハレル吾々ハ此問題ヲ世界ニ訴ヘ公平ナ批判ト解決トヲ求メネハナラヌ

十七日同報曰ク

今日迄半信半疑テアツタ華工虐殺説ハ王兆澄ノ帰国ニ依ツテ其真相ヲ知ルコトカ出来タカ最モ吾々ノ遺憾ニ堪ヘナイコトハ次ノ数点テアル

(一)暴行ハ仮令自衛団ノ所為ニセヨ日本当局ハ之ニ対シ当然德義上ノ責ヲ負フヘキテアル

(二)大島町ノ華工百七十三名ノ残殺説ハ最早疑フヘキ余地ハナイソレヲ日本当局ハ不問ニ付シテ居ルコト

(三)共済会長ハ警察ニ拘禁サレタ儘行方不明トナツタカ何ノ罪アツテ彼ヲ拘禁シタカ

(四)日本当局ハ王兆澄ノ帰国ヲ禁シ嚴重行方ヲ搜索シタト云フコトテアルカ此ハ恐ラク彼ハ華工ノ情況ヲ知ツテ居

ルノテ帰国シテ発表サルルヲ防止シヨウトシタノテアラ
ウ云々

十八日同報又「国民ト華僑被害事件」ト題シ左記三項ヲ掲
ケ国民ノ自重ヲ促シタリ

(一)代表者数名ヲ送テ事実ノ真相ヲ確メ其上テ日本当局ニ
責任ヲ問フコト

(二)習志野ノ華工虐待説ハ採ルニ足ラナイ何セナレハ当時
東京百万ノ市民サヘ殆ント衣食住ニ窮シタノテアル

(三)震災後日人ハ非常ニ吾々ノ同情ニ感謝シ両国民ノ友誼
ハ日ニ増進サレテ居ル今日残殺説ノ為ニ日災ニ対シ同情
ヲ喪ヒ或ハ両国民ノ友誼ヲ傷クル様ナコトカアツテハナ
ラン只事件ハ事件トシテ別ニ責任ヲ問フヘキテアル

四六六 十月二十五日

伊集院外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

中国人殺傷事件ニ付施代理公使ヨリ抗議申入

ノ件

別電

同日伊集院外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第
六六九号右抗議公文

第六六八号

十月二十日付ヲ以テ在本邦支那代理公使ヨリ大要別電第六

六九号ノ通り公文送付越シタルカ右ニ付同代理公使ノ内話
ヨリ推測スルニ別電公文提出ニツキ同代理公使ト本國政府
トノ間ニ多少打合ハ有之タル模様ナルモ特ニ本國政府ノ訓
令ニ基キタル次第ニハアラス寧ロ当地学生等ニ対スル関係
ヲ顧慮シタルニ出ツルモノノ如シ尚ホ本件公文ニ対シテハ
出来得ル限り正確ニ事実調査ノ上回答ヲ發スル筈ナリ
右貴官御含迄

(別電)

別電第六六九号

王希天ニ付テハ王兆澄其他ノ報告ニヨリ九月九日大島町共
済会事務所ニ至リ支那労働者ヲ救護セシ後行衛不明トナレ
ルカ十一日同人カ多数労働者ト共ニ亀戸警察署ニ拘引セラ
レ直ニ警用ノ繩ニテ縛セラレ拉出セラレタルヲ見タル者ア
リ又日本警察署ノ証明書ヲ所持シタル趣ナリ以上ノ事情ニ
顧ミ查トシテ其ノ踪跡ナキハ奇怪ノ念ニ堪ヘス又学生韓潮
初沈誦墳陳倬ハ九月四日午後一時途上自警団ニ抑留サレ学
校ノ身分証明書ヲ示セルニ拘ハラス該自警団約三四十人ノ
為メ重傷ヲ受タル趣ナリ尚又学生王德建、戴尚文、劉篤
敬、張愷、王兆澄其ノ他数名モ均シク朝鮮人ト見做サレテ

在吉林

総領事代理 深沢 暹(印)

外務大臣男爵 伊集院

彦吉殿

吉林省人王希天東京ニ於テ行衛不明トナリタル

事件ニ就キ吉林省議會ヨリ各方面ニ送リタル文

書其他ニ関スル件

殴打負傷セシメラレ又大島町付近居住ノ支那労働者ノ被害
甚タ多ク其他地方ヘ避難ノ途中殴撃セラレタル死傷者幾何
ナルヤヲ知ラス又横浜駐在總領事ノ報告ニ依レハ支那労働
者阮順軒等十七名神奈川県足柄下郡土肥村ニ於テ日本人中
森文次郎ノ下ニ労働中九月四日日本人百余名ノタメ攻撃セ
ラレ死者三名重傷者二名ヲ出セル趣ナリ之等支那人中ニハ
警察署或ハ学校ノ身分証明書又ハ国籍証明書ヲ所持シタル
モノアリ其ノ他支那人タルコト絶対ニ明白ナルモノノ加害
セラレタルモノアリ右事情ニ就キテハ本代理公使右事情ヲ
本國政府ニ報告シ別ニ弁法ヲ提議スヘク一方嚴重ナル抗議
ヲ提出ス就テハ詳細調査ヲ遂ケ其ノ結果及処置方御回答相
成度シ

四六七 十月三十日

在吉林深沢総領事代理ヨリ
伊集院外務大臣宛

王希天東京ニ於テ行衛不明トナリタル事件ニ

ツキ吉林省議會ヨリ各方面ニ送リタル文書其

他ニ関スル件

公第二四一号

(十一月九日接受)

大正十二年十月三十日

八 関東大震災関係 四六七

吉林留日学生同郷会ヨリ十月九日東京ヨリノ通信ニ依レ
ハ本省留日学生長春県人王希天ハ九月九日朝支那人同胞
ヲ救済スル為メ東京ヨリ大島(大嶋町ノ意ナランカ)ニ
赴キタルニ行キタル儘消息ナク十九日ニ至リ伝ヘラレタ
ル某支那人ノ書面ニハ九月九日王希天カ日本警察官数名
ニ縛セラレテ亀戸警察署ニ拘留セラレ翌朝三時頃日本憲

兵数人ノ為メ縛セラレシ儘他処ニ連レ行カレタルヲ見タリトアリ其後支那ニ親シキ日本人ヲ歴訪セシニ諾々唯々恰カモ実情ヲ知レルモ故サラニ隠匿シテ告ケサルカ如キ様子アリ又日本人佐藤某ノ言フ所ニ依レハ王希天ハ既ニ擊斃セラレタル趣ニテ朝日新聞ニハ外国人王希天ハ九日以来行方不明トナレリ云々ト記載シアリ又王希天ノ家属カ長春日本領事館ニ於テ消息ヲ尋ネタルニ亦之ト同様ニテ要スルニ王希天カ日本警察ニ捕ヘラレタル後今ニ至ルマテ生死不明ナルハ確カナル事実ニシテ査スルニ王希天ハ民国四年日本ニ留学シ品学素ト優ナリシカ只客年多数ノ支那人等労働者トシテ日本ニ赴キ日人ノ虐待ヲ受ケタルタメ王希天ハ留学同志ト共ニ共済会ヲ組織シ専ラ此等ノ労働者ヲ救護シ且ツ之カ為メニ学校医院等ヲ設ケテ以テ其知識ヲ増進セシメ其生活ヲ改良セムトシ之カ為メニ頗ル日人ノ嫉視ヲ受ケタル次第ニテ震災ノ際日本人ハ朝鮮学生ヲ惨殺シタル者甚タ多ク支那学生亦十余人朝鮮ノ乱党ナリト誣ヒラレ害ニ遭ヒタルモノアリ這回王希天モ既ニ日警ニ拘留セラレ又憲兵ニ捕ヘ去ラレタル以上恐ラクハ亦毒手ニ遭ヒタルモノナラン依テ省長公署ニ転請シ

ノ照会ニ接シ長春日本領事館モ亦日本外務省ヨリ返電ニ接シタルカ均シク王希天ハ九月十二日釈放セラレタル者ナリト述ヘアリ然ルニ今ヤ一ヶ月ヲ経タルニ王希天ハ畢竟何レニ往キタルヤ何カ故ニ偏査スルモ毫モ踪迹ナキヤ是日人側ノ諉卸ノ辞ニアラサルヲ保シ難ク旁々注意ヲ請フ云々ト申越有之右併セテ御注意ヲ祈ル云々

尚本件ニ関シテハ過日財政庁長孫其昌他用ノ為メ当館ニ來訪ノ際談偶々之ニ及ヒタルニ王省長ニ於テモ省議會ノ者等ヨリ此事ニ関スル質問ヲ受ケタルカ同省長ハ彼等ニ対シ如何ニ大震災後混乱ノ際ナリシニセヨ日本軍警ニ於テ謂レナク支那留学生ヲ殺スカ如キコトハ有リ得ヘカラサル事ト思ハルルニ付先ツ事実ノ真相ヲ明カニスルヲ要スト撫メ置キタル次第ナリト語リ居リ候処一昨二十七日交渉員王莘林ハ同署第一科長田解ヲ当館ニ遣ハシ來リ本官ニ面会ヲ求メ本件王希天ノ事ニ関シ尋ネタルニ付特ニ取り置キタル十月二十一日上海発刊「時報」紙上ニ詳載シアル矢田總領事ノ説明其他ノ記事ヲ示シ且ツ序ヲ以テ大正十二年十月五日付文化普通合第五四三号貴信付属日華学会ノ支那学生其他保護送還者名簿ヲモシシ非常大天災ニ際シ斯ル世話ヲ為ス苦心

同公署ヨリ速カニ嚴重交渉方ヲ駐日公使ニ電報スル様取計ラハレタキ旨当省議會宛申出有之其後省長公署ヨリハ本案ハ既ニ駐日公使ニ詳査方ヲ電請シタルモ未タ回答ニ接セス從ツテ王希天カ害セラレタルヤ否ヤハ尚ホ我公使側ノ偵察中ニ在ル旨申越有之然ルニ該生ハ既ニ僑工ヲ救護スル事ノ為メ平素日人ノ嫉視セラレタリト云ヒ又現在各方面ノ消息ニ徴スルニ正ニ吉少ナクシテ凶多キヲ恐ルル次第ニシテ若シ迅カニ真相ヲ求メ日人ニ向ッテ正当交渉ヲ為スニアラサレハ則チ今後支那ノ日本留学生ハ皆將ニ人々危ブムヘク日人ニ在リテハ我國僑民ニ対シ宰割隨意ニ必ス更ニ忌憚ナキニ至ラン就テハ一致駐日公使ニ対シ速カニ詳細偵査シ若シ尚拘留セラレツツアルニ於テハ先ツ釈放セシメ又若シ既ニ誣害ニ遭ヒタルモノナルニ於テハ応サニ如何カ嚴重ニ交渉スヘキヤ人命ノ関スル所ハ即チ亦國權ノ繫ル所ナル旨ヲ電報セラレンコトヲ請フ当省議會ヨリハ直接駐日公使ニ電請シ置キタルカ(貴方ニ於テモ)日本政府ニ向ッテ正式ノ詰問ヲ為サンコトヲ公使ニ電報セラレタク企盼ノ至リニ勝エス尚發電間際ニ當リ更ニ留日学生同郷会ヨリ駐日公使館ハ既ニ日本外務省

ノ一通リナラサルヘキヲ語り吉長日報ノ如キカ只一人ノ王希天ノ事ノ為メ日本ノ軍人警察官等カ数百ノ支那人ヲ惨殺シタリト云ヘルカ如キ筆法ヲ弄セス稍平靜ナル判断ヲ用ヒ事実ノ真相明白トナルヲ待タンコトヲ希望スル旨ヲ述ヘタル処同科長モ大ニ首肯シ日華学会ノ労ヲ讃メ歸リテ王交渉員ニ復命スヘントテ辞去致候越ヘテ二十九日ニ至リ更ニ橋本書記生ヲ遣ハシ王交渉員ニ面会ノ上長春宛貴電第三八号ノ内容ヲ然ルヘク伝達セシメ置候右及報告候 敬具
本信写送付先 芳沢在支公使、奉天、哈爾賓、間島總領事、長春領事

四六八 十一月一日

在蕪湖田中事務代理ヨリ
伊集院外務大臣宛

中国人虐殺説ニ関シ中国要人ニ釈明ノ件

往信第一五一号

(十一月二十一日接受)

大正十二年十一月一日

在蕪湖

領事館事務代理 田中 作(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

支那人虐殺説ニ関スル件

震災当時支那人多数邦人ノ為メ虐殺セラレタリトノ風說過般来ヨリ当地方ニ流布セラレツツアリ之ガ誤解一掃ノ為メ支那官憲ト懇談シ又ハ新聞紙ニ其逆説ナルコトヲ発表セシムル等夫々措置ヲ執リ居候処尚ホ上海方面ヨリ該説ヲ流布シ来リ排日宣伝上ニ利用セラレントスル傾向有之候十月三十一日天長節祝日当日王鎮守使、何交渉員等ノ当地重要支那官憲均シク前後来館祝意ヲ表シタル後談偶々該風説ニ及ビタルヲ以テ其際何交渉員ガ震災當時在留支那人多数日本人ノ為メ虐殺セラレタリトノ説当地方ニモ頻リニ伝播セラレ一般人民就中学生間ニ誤解アル模様ニテ之ガ氷積ニ努メツツアルモ此際一層真相ヲ鮮明ニシ誤解ヲ一掃シ度シト簡人トシテ述べタルニ対シ小官ハ當時在留貴国人ニシテ鮮人ト誤認セラレ昂奮セル市民ノ為メ捲添のニ少数負傷シタルモノアルハ事実ナル如キモ独リ貴国人ノミナラズ邦人中ニモ同様誤認ノ下ニ危害ヲ被レルモノ鮮カラズ単ニ此点ヨリ見ルモ決シテ貴国人ト確認シナガラ傷害行為ニ出テタルモノニアラザルコトハ明瞭ナル事実ニシテ虐殺説ノ如キ無稽モ極マレリ政府当局ガ震災中貴国人救護ノ為メ全力ヲ傾注シタル実績ヲ詳細ニ徴スルニ於テハ何人ト雖モ右ノ如キ捏

ヲ以テ及報告置候処十一月一日当地発刊吉長日報紙上ニ「各界追悼僑日被難工人及王希天君籌備会」ノ名義ヲ以テ「吉林同胞ガ追悼大会ニ注意センコトヲ請フ」ト題シ「這回日本ノ震災ニ際シ我國僑日ノ工人ガ日本ノ軍警ノ為メ端ヲ藉リテ殺害セラレ非命ニ死シタル者其数甚タ多ク我省ノ同郷留日労働共済会会長王希天君亦同時ニ難ヲ被ムリタル消息伝ハリ来ルヤ国人髮指セサルナシ同人等来ル日曜日(四日)ニ於テ僑日被難工人及王希天君ノ追悼大会ヲ舉行スベキニ付各界ノ人士中輓聯、祭文等ヲ送ラルル向ハ予メ省議會内秘書庁迄届ケラレタシ追悼会ノ地点ハ統報スベシ玆ニ啓ス」ナル広告ヲ掲ケ居リ尤モ雜報欄ニ於テモ此事ニ関スル記事ヲ載セ其内ニ右追悼会ニ就テハ官庁方面ニモ報告シ其同意ヲ得タル次第ナルガ但タ会ニ与カル団体及学生等ニ於テハ謹シテ範圍ヲ守ラレンコトヲ望ム云々ト付記シ居リ候而シテ同吉長日報ハ十月三十一日ノ紙上ニ左ノ如キ評論ヲ為シ居リ候

王希天ノ失踪事件ハ単ニ吉省各界ニ於テ憤激不平ナルノミナラズ國權民命ヲ以テ論スルモ豈之ヲ不問ニ置クベケンヤ然ルニ我駐日ノ公使ハ何ヲ為シツツアリヤ多数ノ僑

造説ニ惑ハサルコトナカルベシ事実ハ早晚一層鮮明ニセラルベキモ只斯ル混乱ノ際尚ホ人事ノ及バサル遺憾ノ点アルハ各国トモ幾多事例ヲ有スル次第ナルコトヲ一般ニ諒解セシメ益々誤解一掃方ニ尽力セラレタシト囑望致置候処鎮守使ト交渉員等ハ篤ト此事情ヲ諒トシ殊ニ混乱ノ際斯ル事件ノ發生ハ免レ難キ所ナル次第ヲ肯定ノ上辭去致候此段報告申進候 敬具

本信写送付先 在支公使

四六九 十一月二日

在吉林深沢總領事代理ヨリ
伊集院外務大臣宛

吉林省人王希天行衛不明事件ニ関スル当地吉

長日報紙上ノ記事訳報ノ件

公第二四五号

(十一月十七日接受)

大正十二年十一月二日

在吉林

總領事代理 深沢 暹 (印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

吉林省人王希天行衛不明事件ニ関スル件

本件ニ関シテハ大正十二年十月三十日付公第二四一号拙信

工及学生ノ行衛不明ガ二ヶ月ニ近キニ拘ハラズ猶ホ確實ナル報告ナキ位ニテハ其交渉如何ノ如キハ更ニ問フニ及ハサルナリ謂フニ此事タルヤ日本政府ニ於テ自カラ責ヲ負フベク我ニ在リテハ公使館ヨリ直接交渉ヲ提起スベク万一日本政府側ニ於テ査問スルニ由ナキコトヲ詞ト為ストモ我ニ在リテハ九月九日後王君ガ明カニ警署ニ羈押セラレ居リ之ヲ見タル者ハ一人ニ止マラサルコトヲ知レル次第ニシテ此ノ如キ確鑿ナル証アルニ拘ハラズ警署ニ在リタル後王君ノ生死査察ノ由ナシト云フ如キコトハ有ルベカラサルノ理ナリ故ニ我外交当局ハ応サニ之ニ抛リテ相質シ又我國各界ノ人士ニシテ本案ニ注意スル者モ証拠ヲ集メ当局ニ提出シ速カニ取計方ヲ請フベク斯ル措置ヲ執ルコトハ兩國国交上ニ元々何等妨礙ナキコトニシテ若シ遷延隱忍セバ影響ノ及ブ所恐ラク国交上ニ無關係ナル能ハザルベシ云々

右御参考迄及報告候 敬具

本信写送付先 芳沢在支公使、奉天、哈爾賓、間島總領事、長春領事

四七〇 十一月六日 中山関東庁警務局長ヨリ
出淵重細重局長他宛

中国人誤殺事件ニ対スル弾劾の新聞記事取
ノ件

秘関機高収第一六四九八号ノ一 (十一月十二日接受)

大正十二年十一月六日

中山関東庁警務局長(印)

出淵重細重局長殿

俵 拓殖事務局局長殿

岡田警保局長殿

湯浅警視総監殿

十一月一日長春城内発行大東日報ニ「請フ見ヨ日本政府ノ
残殺中国労働事件」ト題スル左記訳文ノ如キ記事アリ

左記

日本ハ今次震災後ニ於テ東京一帯ノ所謂青年団ナルモノノ
中国労働者及学生ヲ殺戮シタル数ハ数百人ノ多数ニ達シ真
ニ震古絶今世界稀有ノ惨事無人道ノ駭聞タリ惟フニ吾国昔
年發生シタル拳匪ノ乱ト比較シ其ノ異ナル点ヲ挙ケンニ日
本ハ文明ヲ以テ自ラ命スル国家ニシテ此ノ種拳動アリ知ラ

吾人中国人ハ拳匪ノ乱ニ因リ遂ニ八箇国連合軍ノ問罪ヲ招
キ臨城土匪ノ列車劫奪ハ各国ヨリ干涉ノ拳ヲ招キタリ
我カ同胞斯ク多数殺害セラレ何等ノ問題ヲ為サス之レハ明
カニ世界各国ハ吾等ヲ人類ト認メサルナリ本件發生ニ付キ
考フルニ彼等ハ吾々人類ノ一分子ト認メサル方法ヲ試ミタ
ルモノナリ吾々若シ放任シ彼等ヲ問罪セス默認セハ吾々ハ
人間ニアラサルナリ同胞起キテ醒メヨ

四七一 十一月七日 伊集院外務大臣ヨリ
在本邦施中国代理公使宛

中国ヨリ照会アリタル中国人留学生ノ被害ニ
関シ調査事実大要回答ノ件

亜一普通第三一号

以書翰致啓上候陳者今回ノ震災ニ際シ危害ヲ被ムリタル
貴国人ノ件ニ関シ本年十月二十日付貴翰長字第六号ヲ以テ
御申越ノ次第致敬承候本件ニ関シテハ曩ニ貴国政府ヨリモ
芳沢公使ニ照会アリ直ニ一応ノ回答ヲ發シ置キタルカ帝國
政府ニ於テ各被害事件ニ付當該官憲ヲシテ厳密調査ヲ遂ケ
シメタル結果今日迄ニ判明セル事実大要左ノ通ニ有之候
一、中華僑日共済會長吉林学生王希天ハ九月十日東京市外

ス彼ノ懷ケル心事現在日本政府ハ吾国民ノ憤激及ヒ政府
ノ抗議ニ対シ但ニ其罪ヲ認メサルノミナラス無道理ノ詞ヲ
以テ回答シ居レリ何レニ中国ヲ認ムヘキヤ彼ノ回答ヲ見ル
ニ地震ノ際韓人横暴ノ行為アリ群情憤激シ貴国学生三名言
語不通ノ為メ韓人ト誤認セラレ遂ニ殴打傷害セラレタリ殴
打セラルル時日本婦人ヨリ中国ノ学生ナルコトヲ弁明シタ
ルニ群情憤激ノ下ニ該婦人ヲ韓人庇護ノ疑ヲ以テ之又殴打
セラル此ノ外当地震害ノ際貴国人ニシテ言語不通其ノ他ノ
事情ノ為メ殴撃ニ遭ヒ或ハ罹災死亡シ又ハ他ノ事故ノ為メ
行衛不明トナリタル者尠カラサルヘント思料シ目下極力調
査中ナルカ此次震災ニ貴国人民若干名カ各種ノ誤解ノ為メ
民衆ニ傷撃セラレタルコトニ至ッテハ帝國政府ノ遺憾ニ堪
ヘサル処ナリ惟フニ此ノ未曾有ノ天災ニ際シ加フルニ一部
分朝鮮人ノ横暴ハ群情ニシテ憤激セシメタルニ至リ此ノ不
祥事ヲ發生セリト右回答ノ詞ヲ見ルニ中国ヲ朝鮮ト同一列
ニ置キタリ宜ナリ大震災外ニ於ケル殺害被害ハ中国人ト朝
鮮人トノミニシテ西洋人ハ一名モナク被害アルヲ聞カス知
ラス所謂中日親善ハ何ヲ以テ解説スヘキカ

日本政府ノ種々回答ヲ見テ吾国民ハ尚ホ睡眠セントスルカ

大島町ヲ徘徊中亀戸警察署ニ於テ万一ノ危険ヲ慮リ一時
同署ニ収容保護ヲ加ヘ十二日早朝習志野救護所ニ送致ス
ル為同方面警備ノ任ニ当リ居タル軍隊ニ引継タルニ同軍
隊係員ハ王カ一見普通労働者ト挙措ヲ異ニスル点アルヲ
発見シ為念取調ヘタルニ相当ノ教育アル者ニシテ又日本
語ニモ熟達シ居リ習志野ニ送致スルノ必要ナシト認メタ
ル折柄同人モ亦其ノ寓所タル早稲田ニ帰還シ度シト申述
ヘタルヲ以テ同係員ニ於テ直ニ其ノ希望ヲ容レ之ヲ放還
セリ然ルニ其後同人ハ其寓所ニ帰還セサル趣ニ付帝國官
憲ニ於テ目下極力其行衛搜查中ナリ

一、貴国学生韓潮初、沈誦墳、陳倬ニ暴行ヲ加ヘタルモノ
ハ東京市本郷区駒込町居住森一、鈴木熊蔵、本田友
治、原海治、谷沢薫忠、島田礎、佐藤平次郎、矢崎莊太
郎及同区駒込追分町居住藤清二郎ノ九名ニシテ彼等ハ非
常警戒ニ從事中九月四日前記学生カ其ノ避難地ヨリ其ノ
寓居タル第二中華学会ニ帰還ノ為本郷区駒込町二番地
先街路通行ノ際之ヲ不逞鮮人ト誤信シテ殴打ヲ加ヘ内一
名ニ重傷二名ニ輕傷ヲ負ハシメ尚ホ彼等ト同行セル同学
舍賄方森ハルカ其支那学生ニシテ鮮人ニ非ルコトヲ熱心

ニ弁明シタルニ該婦人ヲ以テ不逞鮮人ヲ庇護スルモノト認メ均シク殴打負傷セシメタリ前記加害者ハ何レモ已ニ所轄裁判所ニ起訴セラレ目下審理中ナリ

一、貴国学生王徳建等及労働者ニ関スル事件ニ付キテハ帝國官憲ニ於テ鋭意調査ヲナサシメツツアリ

一、前頭貴信中ニ記載ナキモ栃木県上都賀郡西大芦村居住秋沢八郎、佐藤梅松ノ兩名ハ不逞鮮人カ震災地方ヨリ同県下ニモ侵入スルノ虞アリトノ流言ヲ過信シ村内警戒中九月五日貴国広東府大南門外万年筆行商人広志定ヲ不逞鮮人ナリト誤信シ全癒一週間ノ傷害ヲ与ヘ又東京府下尾久町居住宮杉益五郎ハ九月一日都下ノ混乱ニ際シ貴国人重怒順ナルモノヲ不逞鮮人ト誤認シ刺殺シタル事実発見セラレ已ニ所轄裁判所ニ起訴セラレ目下審理中ナリ

要之以上ノ各事件ハ世界ノ歴史ニ類例ヲ見サル大震災火災ノ為帝都及横浜ノ大部分灰燼ニ帰シ死傷算ナク通信及交通機関悉ク杜絶シ官憲ノ警備意ノ如ク行ハレス異常混乱ノ際偶偶不逞鮮人放火強盜等ノ暴行ヲ敢テシ危険思想ヲ抱懷スル一部本邦人モ亦之ト氣脈ヲ通シ居ル旨ノ風説盛ニ流布セラレ然モ此種ノ犯行ノ歴然認ムヘキモノ尠ナカラサリシヲ以

候間右ニ御諒承相成度此段回答申進旁々本大臣ハ茲ニ貴下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

(欄外註記)

一、大正十二年十一月一日警備會議(陸、司、内代表者出席)ニ於テ關係当局ノ意見ヲ徵シ結局本案之通確定

二、第三項欄外 十一月六日警保局長來訪懇談ノ結果訂正

(「貴国学生王徳建」以下ノ「威尚文、劉壽敬、張耀、王兆遠、労働者」既順軒等一七名並ニ大島町居住及其他ヲ削リ「等及」トス)

三、第四項欄外 十一月五日林刑事局長來訪更ニ下記ノ通訂正(「万年筆行商人広志定ヲ」ノ次ニ「不逞」ノ二字ヲ又「貴国人重怒順ナルモノヲ」ノ次ニ「不逞鮮人ト誤認シ」ヲ挿入ス)

四七二 十一月八日

中山関東庁警務局長ヨリ
出淵亜細亜局長其ノ他宛

本邦ニ於ケル被害中国人労働者及ビ留學生ニ
関スル新聞記事取報ノ件

秘関機高収第一六五〇一號ノ一 (十一月十二日接受)

大正十二年十一月八日

中山関東庁警務局長(印)

依拓殖事務局長殿

八 関東大震災関係 四七二

テ人心極度ニ昂奮シ相競フテ所在ニ自衛の団体ヲ組織シ日夜警戒中無辜ノ鮮人及邦人ニシテ誤解ニ依リ彼等ノ為メ殺傷セラレタルモノ尠ナカラサリシ次第ニ有之從テ貴国人中ニモ前記ノ如ク不幸彼等ノ為危害ヲ受ケタルモノアルハ當時ノ状況如何トモ致方ナカリシ次第ニ有之又貴国人ニシテ警察署又ハ学校ノ身分証明書、国籍証明書等ヲ所持シ其身分ヲ明ニシタルニ拘ラス危害ヲ受ケタルモノ無之ヲ保セスト雖本邦人中其身分一見更ニ疑ノ余地ナキモノニシテ尚ホ且ツ誤解ニ依リ傷害ヲ受ケタル事例乏シカラサル次第ナレハ此点特ニ御諒察ヲ乞ハサルヲ得ス候

今ヤ貴我兩國々交益々親善ヲ加ヘ今次ノ震災火災ニ付貴国官民各方面ヨリ多大ノ同情ヲ寄セラレ又我國ニ於テモ官民一致シテ貴国人ノ救護ニ全力ヲ尽シ互ニ同情ト誠意トヲ披瀝シタルニ際シ偶々突発的ニ叙上ノ如キ不祥事件ノ發生ヲ見タルハ帝國政府ノ深ク遺憾トスル処ニ有之候得共何分異常混乱ノ際ノ出来事ニシテ常規ヲ以テ律ス可ラサルモノアルハ貴国政府ニ於テモ蓋シ十分御諒解アルヘキ義ト確信致候尤モ帝國官憲ハ今後共鋭意此等暴行事件ノ捜査ニ努メ罪狀判明セル犯人ハ法ニ依リ嚴重処罰ス可キハ勿論ノ義ニ有之

出淵亜細亜局長殿

岡田警保局長殿

湯浅警視總監殿

本月一日長春城内発行漢字新聞大東日報ニ「全国一致ノ反對日本慘殺中国労働者及留學生ノ憤慨」ト題シ大要左記意味ノ記事ヲ掲載シアリ

左記

吉林各法團開会ノ決議

上海温州同郷会及各団体ノ激昂

吉林学生連合会ハ日曜日ニ省議會堂ヲ借りテ開会シ首メ吉林留日学生同郷会代表謝英林ヨリ王希天ノ履歷及拘引セラレタル状況ヲ報告シタリ當時直チニ北京外交部東京駐在公使及全国学生總會国民外交会ニ對シ嚴重日本ニ抗議センコトヲ通電スルコトニ決議シタルカ尚ホ一週間内ニ被害者ノ追悼会ヲ営ムコトニ定メタルカ農商教工ノ四会モ昨日連合会ヲ開キタリ留日学生会會長謝英林ヨリ前同様報告演說シ後全国省議會北京外交部駐日公使ニ通電スルノ外尚ホ学生連合會長ト被害者ノ追悼会開催ノ準備スルコト決議シタリ省議會モ亦開会本事件ニ付日本ニ對シ嚴重交渉方政府及駐

日公使ニ電請ヲ發送シタリ
温州同郷会ノ書面

各国協同力争シ温州同郷会ハ昨日日本件ノ為メ二書信ヲ發送セリ

- (一)ハ全国各法団ニ宛テタルモノ
- (二)ハ該地各公団ヘ宛テタルモノ

市民大会ノ交渉

惨殺労働者交渉委員会ハ曩ニ対日外交市民大会ニテ決議シタルカ本日江西路ニ於テ第一次委員会ヲ開キタルカ其ノ決議下ノ如シ

- (一)翁国助ヲ推シテ何世貞ト協議ノ上期日ヲ打合セ日本総領事ニ会見スルコト
- (二)各同郷会ニ通知シ各地ノ同郷会ニ請ヒ調査ヲ依頼シ真相ヲ明スルコト

- (三)張元節ノ溺職ノ罪状ヲ宣布スルコト

- (四)今後ハ日本賑恤義捐金募集ヲ停止シ一面該義捐金ヲ以テ災害民ヲ救済シ並ニ本会ノ名義ヲ以テ各界ニ通知シ以テ宣伝ニ資スルコト

外交会ノ憤慨

要求スルコト

- (一)書面ヲ以テ在京ノ顧孝椿ニ実地調査ヲ依頼虞楽二君ノ真相ヲ明ニスルコト

以上ヲ以テ閉会

王希天ノ死亡已ニ確実

過日近江丸ニテ帰国シタル労働者九十五名ノ内陳寿善ナル者アリ浙江清田県三内部ノ者四十二近キ者ナルカ陳ハ従来東京横浜等ノ地ニ於テ請負ヲ業トシ該地ノ下流居留民ト相識ル者多ク震災前ハ神奈川県川崎町日本人夫頭菊地兼吉方ニ居住シタルカ震災后胞弟戚友ノ安否ヲ視察ノ為九月十六日東京府下大島町ニ行キシニ通行ヲ阻止セラレタリ予テ携帯スル横浜総領事ノ護照ヲ提示シ漸ク目的地ニ行クコトヲ得タルカ大島町六丁目ハ空家ノミトナリ居リテ通行者ニ尋ネタルモ知ラストノ答ナリシカ砂町ニ至リ氷店主人ニ就キ尋ネタルニ同人ノ言フ処ニ依レハ暴動ノ際戚友ハ隠レ幸ニ難ヲ免レタルモ然シ驚ヲ受ケタルコト夥シク目下ハ千葉習志野ニ去リ君等ノ親分(共済会々長王希天ヲ指ス)ハ夙ニ死シ其ノ死タルヤ悲惨ナリシト陳君ハ尚ホ問ハントセシモ右主人ハ答ヘス首ヲ揺リ只急ニ大島ヲ去リテ難ヲ免レヨト

国民対日外交大会総部ハ本件ニ関シ書信ヲ矢田総領事ニ送リタリ

壬戌友誼社ノ対策

本会ハ昨日午後一時南駅文安里第二号会所ニ職員列会ヲ開会シ出席者二十余名ナリシカ副社長長榮樹滋議案ノ上程ヲ報告シ終リテ東京ヨリ帰国シタル永興昌洋服店主人龔吉生ヨリ日本ニ於テ警察ノ為メ負傷シタル経過並ニ同郷人虞越生榮清二人カ横浜失敗後今ニ至ルモ行衛不明ナリ之カ為メ至急貴社ニ於テ調査セラレンコトヲ請フト申出タリ龔副社長ハ右龔君ノ届出証拠確實ナリ凡テ血氣痛憤セサルハナシ且ツ近日新聞紙上ニ於ケル日本政府ヨリ上海領事ノ接シタル電告ヲ閱スルニ震災中ノ不幸事件ニ就テハ日本人カ確カニ中国人ヲ迫害ノ事實ヲ承認シ居リテ声明シ居レリ其ノ要旨ハ當時秩序紊乱及人民極端ニ憤激シ居リタル為メノ致ス処云々トアリ日本人我カ同胞ニ対シ故意ニ凶害ヲ逞フシタルヲ見ルニ足ル罪状昭彰実ニ遁レ難シ之カ対策虞楽二君ノ調査進行方法ヲ協議ヲ謀リ長時間ニ亘リテ協議シタルカ二種ノ方法ヲ決議シタリ

(一)日本政府ニ電報シ兇手ノ処分並ニ被害者ノ家族撫卹ヲ

云ヒタリト

四七三 十一月二十五日 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

王正廷一行渡日ニ当リ便宜供与等依頼ノ件

第一〇九五号 (十一月二十五日接受)

往電第一〇九〇号ニ関シ

王正廷ハ愈々来ル三十日当地發滿鮮經由渡日ノコトニ決定シタル由ナルカ同行者ハ往電第一〇六四号劉彥沈其昌ノ外夫人及秘書周電光ノ四人ニテ又其用務ハ未タ直接本人ヨリ確メサルモ支那人殺傷事件ノ調査、露西亜トノ交渉ニ関スル打合せ、交通銀行借款整理並在上海花豐紡績ノ整理ノ件等ナリトノコトナルカ主タル用務ハ寧ロ最後ノ件ナルヘシト想像セラルル同人等一行ノ「ホテル」通関其他然ルヘク御配慮置キアリタシ

四七四 十二月一日 在芝罘別府領事代理ヨリ
伊集院外務大臣宛

中国人殺傷事件ニ関スル新聞論評其他報告ノ件

公第二六六号 (十二月十三日接受)

大正十二年十二月一日

在芝罘

領事代理副領事 別府 熊吉(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

支那人殺害ニ関スル新聞論評其他報告ノ件

過般ノ関東地方震災ニ際シ不逞鮮人ト誤認セラレ傷害ヲ受ケタル支那人殺傷事件ニ関シテハ十月二十五日付公第三五号ヲ以テ及報告置候処十一月三十日ノ当地愛国報ハ「日本華僑ヲ残殺ス」ト題シ全文左ノ如キ論評ヲ掲載致候

近世国家ノ侵略主義ヲ持スルモノハ亜細亜ニ在リテハ唯一日本ノミ 横浜東京等ノ地力震災ヲ受ケテヨリ以来各国ハ其人道主義ニ基キ贖金相助ケ且思ヘラク日本ハ此一関ヲ経必ス人道ノ根本ハ相互扶助ニ在ルヲ曉得シ而シテ大イニ其従前ノ主義ヲ変更スヘント

料ラサリキ曩ニ鮮人ヲ殺害シ近ク又不遜無理我在留華人数百名ヲ殺戮セリ夫レ日本災害發生ノ当時我華人士モ固ヨリ亦奔走号呼シテ義捐金ヲ募集シ以テ其難ヲ救ヘリ然ルニ彼ハ之ヲ視ルコト漠然奮ニ引イテ恩トナササルノミナラス我留日ノ人民ヲ殺セリ其心果シテ奈辺ニ在リヤ

在奉天

総領事 船津 辰一郎(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

王正廷氏ノ談話ニ関シ報告ノ件

王正廷ハ十二月三日日本官ヲ來訪シ大要左ノ如キ談話ヲナセリ

一、渡日ノ目的

今回渡日ノ目的ハ震災當時ニ於ケル支那人誤殺事件ノ真相ヲ調査スルト共ニ震災後ニ於ケル一般状況ヲモ視察シ尚久シク日本ヲ訪問セサルニ付一般見学ノ為メ京都大阪等重ナル都市ヲモ視察スル積ニテ東京滞在ハ約二週間ノ予定ナリ

二、露支問題

本件ニ関スル「カラハン」トノ交渉ハ行詰リトナリ目下ハ打切ノ態ナルガ去リトテ全然絶望ニモアラス本件行詰リノ原因ハ寧ロ「カラハン」側ニアリ即チ「カラハン」ト露本國政府ト間々意志ノ疎通ヲ得サルカ故ニシテ「カラハン」氏ハ外部ニ対シテ言フ能ハサル一種ノ苦衷アルモノノ如ク目下「カ」ハ折角本國政府ト折衝ヲ重ネツツ

彼果シテ誤殺ト為サンカ則チ誤殺罪亦寛恕ヲ許サス我國政府ハ宜シク嚴重之ト交渉スヘシ若シ果シテ其中ニ何等カ黒幕アリ而シテ彼政府ノ差金ニ出テタランカ則チ此等惨虐無道ノ国家ハ実ニ天下万国ノ宜シク共ニ唾棄スヘキモノニシテ欧米列強モ亦自ラ人道維持ノ責任ヲ解除シ坐視傍觀スル能ハサラン

此種論評ハ当地支那紙中ニ間々現ハレ居ルモ今日迄大勢ニ何等影響スル所無之候ニ付平地ニ波ヲ起ササル様当方ヨリハ進ンテ弁明スルヲ差控ヘ居候尚同日ノ当地各新聞ハ道尹公署ノ命令ニ依リ齊シク外交部ヨリ当地交渉員ニ宛テタル在日被害者ノ有無、証拠、報告日記類ノ写回送等ニ関スル照会電文ヲ掲載致候

右及報告候 敬具

本信写送付先 在支公使

四七五 十二月三日 在奉天船津總領事ヨリ
伊集院外務大臣宛

王正廷ノ談話ニ関シ報告ノ件

機密公第一四六号 (十二月八日接受)

大正十二年十二月三日

アルモノノ如シ

三、奉直関係

先般洛陽ニ吳佩孚ヲ訪問シタルカ吳ノ奉天側ニ対スル態度ハ以前ニ比シ余程緩和セラレ居リ即チ吳ハ曾テ張作霖ノ処罰ヲ主張シ居リタルモ昨今ハ張作霖ヲ野ニ下ラシムル程度ニテ我慢スルモノノ如シ但シ之レトモ奉天派ノ和議条件(付記参照)トハ雲泥ノ差アレハ奉直兩派ノ衝突ハ免ルヘカラサルカ如ク察セラル尤モ現在ハ其時機ニモアラス又兩派ノ準備モ整ヒ居ラサルニ付戦鬪アリトスルモ来年春過キナランカ

付記

先般孫烈臣ノ孫副官カ本官ニ語リタル処ニヨレハ奉天派ノ和議条件トシテハ察哈爾、熱河、綏遠ノ三特別地域ニハ奉天派ノモノヲ都統ニ任命スルニアリト云フ

四、江浙問題

江浙間ノ衝突ハ兩省人民ニ於テ多大ノ反対アルニ付実現容易ナラサルカ如ク觀察セラル尤モ福建孫伝芳カ背後ヨリ浙江ヲ衝カントスルヤノ説モアリ右事実トセハ多少江浙内ニ動搖ハ免ルヘカラサルヘキモ果シテ孫ニ其丈ケノ

余力アリヤ否ヤ疑ハシ云々

王正廷渡日ノ任務其他ニ関シテハ既ニ北京ヨリ夫々報告有之候儀ト被存候モ右何等御参考迄及報告候 敬具

本信写送付先 在支公使

~~~~~

四七六 十二月四日

出淵亜細亜局長ヨリ  
警備会議関係者(湯浅警視總監、岡田警保局長、林刑事局長、小山大審院検事、柴山憲兵司令官、秦警備参謀長、烟軍務局長、杉本法務局長)宛

中国人殺傷事件ニ関スル中国代理公使宛第二

回々答文写送付ノ件

付属書 十二月三日付在本邦施中国代理公使宛公文写

亜一合第二五三〇号

震災時支那人殺傷事件ニ関シ十二月三日施支那代理公使ニ別添写ノ通り公文交付致候条右及送付候也

(付属書)

十二月三日付在本邦施中国代理公使宛公文写

亜一普通第三二二号

以書翰致啓上候陳者本年十月二十日付貴翰長字第六号ヲ以テ御申越ノ件ニ付テハ十一月七日付拙信普通第三一号ヲ以テ及回答置候処其後帝国当該官憲ニ於テ調査ノ結果更ニ判

明セル事実大要左ノ通ニ有之候

一、東京市小石川区西原町居住佐藤茂ハ九月三日同方面警戒中貴国学生王徳建ヲ不逞鮮人ト誤認シ之ニ毆打ヲ加ヘ負傷セシメタリ右加害者ハ已ニ所轄裁判所ニ起訴セラレ目下審理中ナリ

一、神奈川県下吉浜村居住小沢藤蔵、向笠金治、二見近治、二見文平、力石友蔵、大野助作、中島卯之助、坂本徳太郎ノ八名ハ九月四日多数村民ト共ニ同方面警戒中當時同県下土肥村ニ於テ熱海線鐵道工事ニ従事スル鮮人土工十数名カ監督者タル本邦人及其妻ニ対シ暴行ニ出テタル事実ヲ聞知シ昂奮ノ余彼等ヲ襲撃シタルカ其ノ際台湾人ト詐称シ均シク同工事ニ従事シ居リタル支那労働者モ言語不通等ノ為此等鮮人土工ト誤認セラレ不幸ニシテ危害ヲ受ケ阮玉郷及陳紹明ノ二名死亡シ又喪松典ハ負傷セリ右加害者ハ已ニ所轄裁判所ニ起訴セラレ目下審理中ナリ

尚陳宝田ハ前記阮玉郷陳紹明ト前後シテ死亡セル事実アルモ其原因不明ニシテ目下嚴密取調中ナリ

一、東京市小石川区初音町居住吉沢次郎ハ九月二日同方面

警戒中貴国学生王兆澄ヲ不逞鮮人ト誤認シ之ニ毆打ヲ加ヘ負傷セシメタリ  
右加害者ニ就テハ目下所轄裁判所検事局ニ於テ取調中ナリ

右追報旁本大臣ハ玆ニ重テ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

大正十二年十二月三日

伊集院大臣

施支那代理公使

四七七 十二月五日

在奉天船津總領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛

王正廷渡日ノ用務ニ関スル觀察報告ノ件

付属書一 奉天公所長鎌田弥助ノ王正廷赴日ニ対スル觀察

二 王正廷ノ来奉(貴志少將ノ觀察)

機密公第一四七号

(十二月十日接受)

大正十二年十二月五日

在奉天

總領事 船津 辰一郎(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

王正廷渡日ノ用務ニ関スル件

八 関東大震災関係 四七七

(付属書一)

奉天公所長鎌田弥助ノ王正廷赴日ニ対スル觀察

本三日于冲漢来所王正廷赴日ニ対スル觀察ヲ左ノ如ク述ヘタリ



王正廷本日于冲漢ヲ訪問シ談偶東支鉄道ノコトニ及ブヤ王曰ク東支鉄道ハ中国ニテ之ヲ回収スルコト尤モ得策ト思フ貴見如何ト于曰ク貴意ノ如ク実行シ得ラルモノナラハ吾人雙手ヲ挙ケテ之ニ賛同セン貴下ノ盛意ヲ多トスト

王曰ク本案ヲ措イテ他ニ良策ナキヤト之ニ對シテ于ハ何等腹案ヲ有セサル旨ヲ以テ答ヘタリ

王曰ク日露協商ハ果シテ如何ナル点マテ進捗シ居ルヤ此度赴日スルニ付本件ノ消息モ一応伺ヒ置キタシト思フト

于曰ク本件ハ「ヨッフエ」ト川上公使トノ間ニ予備交渉アリ樺太問題尼港問題ニ引懸リ居ルト聞ク以外ニ何等知ル処ナシト尚王ハ赴日ノ上ハ震災後ノ復興事業ニ就テ親シク視察シタシト語リ居タリト

予ハ于冲漢ニ向ヒ王正廷ハ王希天誤殺事件取調ヲ政府ヨリ命セラレアリト聞クカ真疑如何ト質問セシニ于笑ツテ曰ク王希天ハ吉林人ナリ王正廷ヲ煩ハサストモ十分調査ノ道アリ彼レ今回ノ赴日用向ハ略推察ニ難カラス彼ハ北京ニ於テ「カラハン」ト会谈中突如洛陽ニ赴キ六日ヲ費シテ初メテ帛京セリ彼ハコノ洛陽行ニ就キ奉天側代表呂榮賓ニ弁明シテ曰ク若シ万一ニ中露會議決裂シ吳佩孚カ軍隊ヲ北滿ニ派

右于冲漢ノ談其他ノ觀察ヲ御報告申上候

#### (付屬書二)

王正廷ノ来奉(貴志少将ノ觀察)

渡日ノ途次一日夜北京ヨリ来奉セル王正廷ハ二日張作霖ヲ訪問張モ亦答礼シ今猶滯奉中ナルカ王渡日ニ関シ張作霖ノ語ル所左ノ如シ

王正廷渡日表面ノ使命ハ災變誤殺調査ニアルモ裏面ニ於テ二種ノ目的ヲ有セリ則チ一ハ露支會議ニ資スル為メ日本ノ對露意向殊ニ承認問題ニ関スル態度ヲ知ラントシ又一ハ吳佩孚ノ期望ニ依リ日本要路当局者ノ吳佩孚ニ對スル感想ヲ察知スルニアリ

王正廷北京出發前吳佩孚彼レヲ洛陽ニ招致シ曹錕到底永統セサル旨ヲ語ルト共ニ自己カ之レニ代ル可キヲ暗示シ此場合日本態度ノ重大關係ヲ有スル旨等ヲ説キ王ニ依頼シテ自己ニ對スル日本当局ノ態度ヲ内偵スルト共ニ日本ニ對シ自己ニ関スル好宣伝ヲナサンコトヲ期望セルハ事實ナリ

吳佩孚ハ曹錕ニ代ル可ク段祺瑞ヲ擁立セントノ意思ヲ有スルトノ說ハ誤察ナリ近時彼老段ニ接近セント企圖シ居ルハ自己本来ノ野望ヲ達セントスル方便術策ニシテ老段モ亦決

シテ張作霖ノ背後ヲ攪乱スル等ノコトアラハ由々敷大事ナレハ旁之レカ未然ノ計ヲナサンカ為ナリシト呂ハ王ノ此言ヲ信セス曰ク奉天側ニトリテハ何等増益ナシ從テ貴下ニ謝辞ヲ呈スルノ要ヲ認メスト一矢ヲ酬ヘリ

斯カル關係ヨリスレハ王正廷ノ日本行ハ奉直干戈ヲ交フル場合ヲ假想シ日本カ果シテ張作霖ヲ援助スルヤ否ヤニ就キ日本当路者ノ意思ヲ探ラシカ為ニシテ寧ロ吳佩孚ノ意思ニ基キ動キ居ルモノト觀察セラル思フニ日本当局者ハ必スヤ不干渉ヲ声明セン然ラハ之ヲ土產トシテ吳佩孚ヘ復命スルコトトナラン其隨員ノ顔触ニ見テモ王ノ行動カ他力のナルコト明カナリ何レモ臨時ノ驅集者ニテ日露會議ニ携リシモノハ殆ト無ク大部分ハ吳佩孚系統ニ非ラサレハ馮玉祥系統ノ人物ニアラスヤ

尚王ハ当地ニテハ知多會議ニ参与セシ祁大鵬ト打合シタルノミナリ

祁カ一行ニ加ハルヤ否ヤハ目下尚未定ナリ云々  
又一説ニ王正廷ハ直隸ノ旨ヲ承ケ日本ニ借款ヲ申込ミ日本ノ對直對奉誠意ノ尺度ヲ量ラントスルモノナリト

シテ彼レニ利用セラルル如キ愚ヲ演セサル可キヲ確信ス王正廷ハ張作霖ニ對シ東京震災當時吉林留学生王希天ノ殺害セラレタル事實ヲ問ヒタルモ張ハ未タ何等其真相ヲ知ラスト答ヘ置キタリト云々

#### 二、于冲漢ノ言

于冲漢モ亦王正廷渡日ニ関シ略ホ張作霖ト同様ノ觀察ヲナシ猶在北京東三省委員(露支會議陪席トシテ東三省ヨリ五名ノ委員ヲ派遣シアリ)タル奉天省議會副議長ノ密報ナリトシ次ノ如ク付加セリ

王正廷ノ隨行員ハ皆吳佩孚並ニ馮玉祥配下ノ者ニテ王ハ吳佩孚ノ依頼ニ依リ日本政府對張作霖關係ヲ内偵スルト共ニ吳佩孚ノ排日者ニアラサル旨ヲ宣伝シテ其後援ヲ請ヒ止ムヲ得サレハ少クモ張作霖ヲ援助セサランコトヲ運動スルニアリト

#### 三、奉直時局ノ一問題

三日王省長、楊宇霆、李景林、于冲漢等奉天ノ有力者王省長ノ許ニ相会シ左ノ件ニ付キ對策ヲ考究セルモ未タ何等ノ決定ヲ見ス

直隸派ハ近ク馮玉祥ヲ以テ熱河察哈爾綏遠三特別区ノ巡閱

使ニ任命ス可シ之則チ東三省ニ対スル挑戦行為ニシテ現実後ハ再ヒ奉直関係ノ緊張ヲ見ルニ至ル可ク陰曆二月末頃或ハ決裂ヲ来スヤモ計リ難シト

四七八 十二月六日 在奉天船津総領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛

王正廷ノ渡日用務ニ関スル英国総領事ノ觀察  
報告ノ件

機密公第一五〇号 (十二月十一日接受)

大正十二年十二月六日

在奉天

総領事 船津 辰一郎(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

王正廷渡日用務ニ関スル英国総領事ノ觀察ニ関シ

報告ノ件

当館内山領事他ノ用務ヲ以テ英国総領事ニ面談ノ際同総領事ハ王正廷渡日ノ用務ハ何ナリシヤト尋ネタルニ付内山ハ王正廷震災當時ニ於ケル支那人誤殺事件調査ノ為メナリト言ヒ居リタルカ他ニ何等カ聞込アリヤト反問シタル処同総領事ハ自分ハ「王正廷今回渡日ノ目的ハ対露問題ニ関

在齊々哈爾

領事代理 中野 勇吉(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

在本邦支那居留民震災被害調査ニ関スル交渉署ノ

佈告訳文送付ノ件

本月五日当地発行黒竜江報ハ首題ノ如キ佈告文ヲ掲載セルニ付右訳文一通何等御参考迄及御送付候 敬具

本信写送付先 在支公使、奉天総領事

(付属書)

在日居留民ノ被害状況調査ノ件(佈告訳文)

今般特派黒竜江交渉員ハ黒竜江省出身ノ在日学生、商、工人等ノ震災被害ニ関スル調査書提出方外交部ヨリ電命(二十四日付電報)ニ接シタル由ニテ左ノ通佈告セリ  
右ハ渡日調査委員団ノ被害調査ノ参考ニ資セントスルモノナリト云フ

政府ハ目下日本ニ委員ヲ派遣シ在日学生、商、工人等ノ震災被害ニ関シ其情況並ニ確証ヲ調査セシムル事トセリ就テハ貴省(黒竜江省)出身者ニシテ被害ノ有無ヲ至急法ヲ設ケテ調査ヲ遂行シ尚避難帰国者ニシテ被害ノ状況ヲ目撃セ

スル日本ノ方針ヲ探リ今後支那トシテハ専ラ日本ニ追従セントスルモノナリト觀察セラル蓋シ最近赤露ノ北滿ニ対スル脅威ハ益々重キヲ加ヘ結局鐵路ヲ赤化セスンハ止マサルノ魂胆ナルカ支那ノ実力ヲ以テシテハ到底赤露ノ压迫侵略ヲ防止スル能ハス茲ニ於テカ赤露ノ脅威ヨリ支那ヲ救ヒ北滿ノ国境ヲ安固ナラシムルノ保護者ハ日本ヲ措キテ他ニナキコトヲ最近切実ニ体験スルニ至レル支那ハ先ツ日本トノ諒解ヲ得協調ヲ保チテ対露政策ヲ確立スルモノニシテ換言スレハ支那ノ採ルヘキ対露策ハ一ニ日本ニ追従スルノ外ナキコト明カトナリタルカ故ナリ云々

右何等御参考迄此段及報告候 敬具

本信写送付先 在支公使 哈爾賓総領事

四七九 十二月六日 在齊々哈爾中野領事代理ヨリ  
伊集院外務大臣宛

在本邦中国居留民ノ震災被害調査ニ関スル  
交渉ノ佈告訳文送付ノ件

付属書 在日居留民ノ被害状況調査ノ件(佈告訳文)

本第一七三号 (十二月十八日接受)

大正十二年十二月六日

シモノアレバ詳細ニ其状況ヲ聴取録取シ又ハ當時ノ状況ヲ記述セル報告書、日記等アレバ各一通ヲ抄録提出セシムルケ月以内ニ夫々取纏メ当部(外交部)ニ送付シ以テ渡日調査委員団ニ転送シ交渉ノ参考資料並ニ挙証ニ便セシムベシ而シテ本件ハ重要事項ナルヲ以テ苟クモ等閑ニ付セザルト共ニ貴地方ノ各新聞及其他ノ報道機関ニ送致登載シ一般ニ周知セシメラレタシ  
右ノ通リ外交部ヨリ電訓アリタルニ付キ即日各県知事、設治員署ニ訓令ヲ発シ知照セシムルト共ニ全省学生及商工人等ニ周知セシムルタメ佈告ス若シ各界ニ於テ日本震災ニ因リ避難帰国者又ハ被害事実目撃者アレバ至急当署(交渉署)ニ出頭陳情シ又ハ作成ノ日記等ヲ提出セラルベシ又地方在住者ハ最寄其地管轄県知事公署或ハ設治員署ニ出頭シ詳細陳情セラルベシ右ハ本国人ノ在外ニ於ケル被害事件ニ関スルモノナレバ万々忽緒觀望セラレザラン事ヲ切望ス茲ニ佈告ス

四八〇 十二月六日 土岐関東庁事務総長ヨリ  
松平外務次官宛(電報)

中国政府特派使節王正廷ノ渡日要件ニ関スル

## 件

(親展)

(十二月八日接受)

貴電支那政府特派使節王正廷渡日要件左ノ如シ御参考迄

一、震災時ニ於ケル支那人ノ被害調査

二、自警団ノ支那人誤殺事件

三、震災後ノ復興事業ノ情况

四、横浜居留支那人ノ救済方法

五、対露交渉問題ニ関スル協調等

委細書面

四八一 十二月八日

西田公使館三等書記官ヨリ  
出淵亜細亜局長宛

王正廷一行来日ノ使命目的及ビ動静ニ関シ報

告ノ件

付屬書 王正廷一行ノ略歴

大正十二年十二月八日

西田 畊一

出淵局長殿

王正廷氏一行来邦ノ使命目的及動静ニ関スル

報告ノ件

十二月三日ノ貴電拝接委細敬承同日急行車ニテ京都發四日夜下ノ関ニ着シ王氏一行到着時日ヲ取調べタルニ六日夕到着ノ予定ナルコト判明シタルニ付同地一泊翌日午前下ノ関警察署長簡井警視、水上警察署長出野警視、下ノ関駅長及内務省ヨリ王氏一行ノ為メ出張シ来レル小田内務属ト会合シ王氏一行到着後ノ警戒並ニ待遇振リニ付諸事打合ヲ了シタリ

王氏一行別紙記載ノ十三名中沈其昌、朱念祖ノ二名ヲ除キタル十一名ハ六日午後七時関釜連絡船ニテ下ノ関ニ到着シタルヲ以テ船ニ出迎ノ上小官簡人トシテ出迎ヘタル旨ヲ告ゲ兼テ打合セノ通り貴賓室ニ案内休憩シ同所ニ於テ王氏ヲ出迎ヘタル引田中将(下ノ関要塞司令官)、大橋憲兵大佐、岸本運輸課長等ト面晤シタル上各新聞記者トノ会見ヲ終リ更ニ山陽ホテルニ赴キ喫茶休憩シ同日午後八時四十五分発車ニテ同地出發七日午後九時三十分東京着日本側ニテハ貴官並ニ戸田鉄道省外事課長、牧野同文会会長代理、森満鉄理事、小貫東亜興業總支配人等ノ出迎ヲ受ケ帝国ホテルニ投宿セリ

王ハ来京ノ途中車上ニ於テ大阪毎日新聞社ノ申出ニヨリ今

回ノ渡日ニ関シ英文ノ「ステートメント」ヲ記シ之ヲ大阪ニ於テ毎日新聞社及朝日新聞社等ノ記者ニ手交セリ(該「ステートメント」ハ新聞掲載ノ通りナリ)

又鉄道省ハ王氏一行ニ対シ一等乗車券、特別急行券、一等寝台券ヲ無償トセリ

王氏一行ハ北京出發以來日本官民ノ出迎斡旋等ニ関シ頗ル満足シ感謝ノ意ヲ表セリ

王正廷氏ノ使命及目的

一、王氏一行ハ支那政府ヨリ震災ノ際日本ニ於ケル被害支那人ノ調査委員トシテ来訪シタルモノニツキ表面ノ使命ハ右調査ニ外ナラザルガ京浜在留支那人被難者慰問ノ意味モ兼テ居レリ尚王ノ内話及王ト日本新聞記者トノ對話並ニ随員等ノ内話ヲ綜合スルニ

被害支那人ノ調査ニ関シテハ被害ノ事実及其状況ノ真相ヲ取調べ殊ニ責任者ヲ明カニスル手段ヲ講ジテ日本当局ノ公正ナル措置ヲ求メテ調査ノ責任ヲ終リ且本件ニ関スル日本官民ノ態度並ニ本件解決ニツキ日本側ト相当了解ノ見込ヲ付ケ右ノ次第ヲ本国政府ニ報告シ本件正式交渉ハ日支外交当局者ニ譲ラントスルモノト認メラル尤モ王

ハ日本側ノ態度如何ニヨリ本件ハ可成円満ニ迅速解決ノ途ヲ講ゼント希望セル様ニ見受ケラル

二、王ハ露支交渉督弁トシテ露支交渉ノ責任者タルヨリ今回ノ渡日ヲ機トシ日露交渉ノ今日迄ノ成行並ニ日本朝野ノ本問題ニ対スル態度ヲ探グリ今後ノ露支交渉ノ参考ニ資シ場合ニヨリテハ非公式ニ何等カノ話合ヲ為サントスル意思アルモノノ如シ、露国通王文璞ヲ随ヘタルハ之ガ為メナリト察セラル

三、王ハ震災後ノ日本一般状況ヲ視察シ殊ニ復興事業ニ関スル実状ヲ取調べ旁從來ノ知己ト会谈シ且出来得ル限り今回渡日ノ機会ニ日本朝野ノ名士ト会见シ他日同人ガ支那政界ニ活躍セントスルニ際シ日本側ト了解ヲ得易キ礎地ヲ作り置カントノ意思ヲモ有スルモノノ如シ

四、付帯用務(場合ニヨリ王又ハ随員ヨリ話合アルベシト認メラル事項)

(一)交通銀行ノ日本借款ニ関シ同行錢総理(王ト錢トハ友人ノ間柄ナリ)ヨリノ依頼ヲ受ケ日本側ト協議ノ意アリ交通銀行員周文彬ヲ從ヘタルハ之ガ為メナリ

(二)王氏経営ノ上海ニ於ケル華豐紡績会社ト東亜興業会社ト

続借款ニ関シ協議ノ意アリ崔士傑ヲ從ヘタルハ主トシテ之ガ為メナリ

(三)張謇側ヨリ依頼ヲ受ケタルモノニヤ棉花改良借款ニ関シ何等カノ進捗ヲ計ラン為メ日本側トノ協議ヲ為サン意アルモノノ如シ

(四)王及汪大燮、蔡元培等ノ発企セル計画丈ケハ大規模ナル東方文化協会ニツキ日本ノ对支文化事業ノ使途ニ充テ居レル義和団賠償金ノ或ル部分ヲ該会基金ニ充テントスルコトニ協議セントノ意アリ

日本滞在日程ノ予定

王氏一行ノ日本滞在予定日数ハ確定シ居ラザルモ少クトモ二週間ハ東京ニ滞在シ帰途名古屋、京都、大阪、神戸其他ノ各処ニ立寄り視察、觀光ヲ為サント欲セリ  
右及報告候也

(付属書)

王正廷一行ノ略歴

被害支那人調査委員

(一)王正廷(勲一等旭日章ヲ有ス)、浙江人、四十二歳、前國務總理、前外交総長、現支露交渉督弁(親任官)、参

議院議員、

王ハ夫人タル王施美利(四十一歳)ヲ伴フ、王夫人ハ嘗テ王ト共ニ欧米ヲ遊歴シタルコトアルモ日本ニハ未ダ遊ビタルコトナキニ付今回王渡日ノ機会ニ觀光旁々同行セリト云フ

(二)沈其昌、浙江省紹興県人、四十二歳、明治大学出身、外交部参事候補、外交部代表ト称ス、嘗テ広東其他ニ於テ裁判官及交渉員タリシコトアリ、沈ハ王ト同行セズ上海經由一兩日中ニ着京ノ筈、沈ガ上海ニ赴キタルハ被害支那人ニ関スル証拠蒐集携帯ノ為メナリト云フ

(三)劉彦、湖南省醴陵県人、四十三歳、早稻田出身、現ニ衆議院議員ニシテ同院ノ外交委員長タリ、同人ハ民間代表ト称スルモ直隷派ニ接近シ居リ、王正廷ニ対スル現支那政府ノ目付役ナリト云フ、同人ハ支那ノ最近外交史ニ関スル著書アリ、人物真面目ナリ、同人ノ弟ハ現ニ東京ニ居リ鉄道省ノ見習生タリ

隨員

(四)朱念祖、江西省蓮花県人、四十一歳、明治大学出身、教育部代表ト称ス、主トシテ京浜震災ニツキ日本留学生慰

(五)胡巳任、二十八歳、慶応大学出身、同人ハ劉彦ノ隨員ニシテ日本事情及日本語ニ精通ス

(六)周文彬、三十歳、交通銀行員ニシテ同銀行代表ト称ス、日本事情及日本語ニ精通ス

(七)張維城、二十八歳、北京大学出身、北京華北大学教授、上海新申報記者、北京正誼通信社々員、英語ニ通ズ、一行ノ通信係

(八)呂山、三十九歳、王正廷ノ從者

四八二 十二月八日

在濟南藤井總領事代理ヨリ  
伊集院外務大臣宛

在日華僑被害者追悼市民大会ニ関シ報告ノ件

付属書 十二月三日付在中国芳沢公使宛公信写

公第三三五号

(十二月十八日接受)

大正十二年十二月八日

在濟南

總領事代理領事 藤井 啓之助(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

公信写送付ノ件

大正十二年十二月三日付在支公使宛公領第四十七号拙信写

間ノ任務ヲ有スト云フ同人ハ本年教育部員陳延齡ト共ニ对支文化事業問題ニツキ渡日セシコトアリ前衆議院外交委員長、江西教育庁長タリ、奉天經由三四日内ニ着京ノ筈

(四)王文璞、黒竜江省望奎県人、四十五歳、衆議院議員、保定法律学堂出身、嘗テ日本ニ留歴セシコトアリ、同人ハ本年七月露国ニ赴キ十月帰国セリ支那ニ於ケル露国通ノ一人ナリ

(六)崔士傑、山東人三十六歳、王正廷ノ顧問、大正六年東大法学出身、山東細目協定会議ノ際隨員ノ一人トシテ主トシテ鉄道本会議ノ日本語通訳ノ任ニ當レリ、王正廷経営ノ華豊紡績会社支配人

(七)周竜光、安徽人、三十七歳、王正廷ノ秘書、大正六年東大法学出身、前北京大学教授、山東細目協定会議ニハ隨員ノ一人トシテ公有財産本会議ノ日本語通訳ノ任ニ當リ

震災後王正廷ノ代表トシテ慰問ノ為メ渡日セシコトアリ(八)裘昌運、江蘇省無錫県人、三十四歳、王正廷ノ秘書、現ニ支露会議総務処処長タリ、米國留学生出身、山東細目協定会議ノ隨員ノ一人トシテ財政分科委員タリ

件名

在日華僑殺害者追悼市民大会ニ関スル件

(付属書)

公領第四七号

大正十二年十二月三日

在濟南

総領事代理 藤井 啓之助

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉殿

在日華僑殺害者追悼市民大会状況報告

本月一日ヲ期シ先般帝都付近震災ノ際ニ於テ在日華僑殺害事件ニ対シ当地学生連合会主催ノ追悼市民大会ヲ挙行スヘキ予定ニ就テハ客月二十一日付公領第四二号拙信ヲ以テ及報告置候処同会ハ予定ノ通り本月一日午前十一時当商埠公園ニテ催サレタルカ其ノ内容大要左ノ通りニ有之候  
参会者約五千名各学校ハ有志参加ノ為メ休校督理交渉員警察庁長各代理商工界ノ有志者ニシテ祭場ニハ死亡者百数十名ノ氏名ヲ列記シ数旆ノ旗ヲ樹立各方面ヨリ寄贈セル輓聯百数十ニ達シ黄勉斎(育英中学校生徒ニシテ現今学生連合

会ノ領袖)主祭トナリ此次日本震災ノ際無辜ナル我同胞百数十名カ日人ノ為メ慘殺セラル今日特ニ被害同胞ノ為メ追悼会ヲ催シ尚最後ノ対策ヲ謀ラントスル所以ナリト挨拶シ黄泉通俗教育巡行講演員朱全璣祭文ヲ朗読シ工界国貨研究会代表新聞記者学生等数名各々登壇悲愴ナル追悼会ノ辞ヲ述ヘ主祭黄勉斎ハ再ヒ立テ日人ハロニ親善ヲ講スルモ其実多数ノ同胞ヲ殺害セルハ如何シ中央政府ヨリ日本ニ抗議ヲ提出シタルコトハ聞及ヒタルモ其内容及進行ハ悉知スルヲ得ス無力ナル政府ニ信賴シ得サルヘキハ臨城事件ノ結果ニ徴シテ明カナリ苟モ我民氣未タ死セスンハ人民自ラ決起スルヨリ更ニ途ナカラント激烈ナル悲憤ヲ演述シ会衆ハ各自登壇シ焼香ヲ捧ケ正午散会セリ当日ハ別紙添付ノ宣言書ヲ配布シ尚同会執行委員ハ昨二日国貨研究会ニ集合前日大会ノ主旨ヲ貫徹スル為メ協議会ヲ開キ更ニ学生連合会委員ハ本三日同問題ニ付キ打合ヲ行フ由ニ候  
右報告申進候 敬具

本信写送付先

外務大臣

青島総領事

四八三 十二月十一日 在奉天船津総領事ヨリ 伊集院外務大臣宛

王正廷ト張作霖会见ノ際ノ王正廷一行渡日用

務ニ関スル応酬振報告ノ件

機密公第一五七号

(十二月十八日接受)

大正十二年十二月十一日

在奉天

総領事 船津 辰一郎(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

王正廷ト張作霖トノ会见談ニ関スル件

今次王正廷一行渡日ノ用務ニ関シ外間種々ノ噂アリ一説ニハ王ハ吳佩孚ノ密旨ヲ受ケ奉直關係ニ対スル日本ノ態度ヲ内偵セントスルモノナリトノコトナリシモ本官ノ見ル処ニヨレハ右ハ寧ロ奉天派カ自己ノ為ニスル宣伝ナラント察セラルル次第ハ本月五日付機密公第一四七号ヲ以テ申進置候処王張兩人ノ会谈模様ニ就キ阪東顧問カ直接張作霖ヨリ聴取シタル処ニヨレハ張作霖ハ王正廷ニ対シ今回渡日用務ヲ尋ネタルニ王正廷ハ本官ニ語リタルト同様(十二月三日付機密公第一四六号参照)誤殺事件ノ調査復興事業ノ現状及

機会アラハ対露問題ニ関スル日本ノ意嚮ヲ探查スル等ヲ主タル目的トスル旨ヲ答ヘタリ依テ張作霖ハ右ノ用務以外直隸派ノ密旨ヲ受ケ居ルニアラスヤト山懸の質問ヲナシタル処王正廷ハ嚴然タル態度ヲ以テ之レヲ否認シ自分ハ支那ノ政界ニ在ル事多年又諸外国ニモ歴遊シ現代ノ一政治家トシテ自カラ任シ居ルモノカ今更ラ吳佩孚ノ如キ軍閥ニ使ハルヘキ者ニアラスト答ヘタル趣ニ有之候  
之ニヨリテ見ルトキハ王正廷ハ直隸派ノ密旨ヲ受ケタリト云フ情報ハ恰モ張作霖自身カ王ニ対シテ懐ケル猜疑心ノ反映ナルカ如ク觀察セラレ從テ右情報ハ張作霖カ其左右ノ要人(例ヘハ于冲漢ノ如キ)ニ対シ一ノ宣伝手段トシテ語リタル処ヲ聞伝ヘタルモノニアラスヤト被思考候  
右何等御参考迄此段及報告候 敬具  
本信写送付先 在支公使

四八四 十二月二十日 伊集院外務大臣ヨリ 在米国植原大使宛(電報)

震災ニ伴フ中国人殺傷事件ニ関スル外務当局

談発表ノ件

第六九七号

## (情報)

震災ニ伴フ支那人殺傷事件ニ関スル外務当局談  
十二月二十日諸新聞紙ニ王正廷外二名ノ陳述書トシテ今次震災後東京及付近各県ニ於テ支那人慘殺事件起リ殊ニ大島町ニ於テ最モ甚シク其ノ被害者三百余人ニ達シタニモ拘ラス日本ニ於テハ未タ徹底の発表ヲナサズ輿論モ亦本件ニ重キヲ置カナイノハ遺憾トスル処ナル旨掲載セラレタガ震火災ノ際本邦人カ誤ツテ支那人ヲ殺傷シタ事件ニ付テハ当局ニ於テ嚴重調査ノ結果犯情ノ判明シタモノハ加害者ヲ起訴スルト共ニ隨時支那政府ニ当該事實ヲ通報シ且其ノ大要ヲ公表シテ来タ右公表外ノ事件ハ今日迄嚴重ナ調査ニモ拘ラス事跡ノ未タ明瞭ナラサルモノデアルガ当局ニ於テハ引続極力取調中デアル

英仏へ転電アリタシ

四八五 十二月二十六日

在長沙田中領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛

## 関東地方震災ノ際誤殺セラレシ中国人追悼会

## ニ関スル件

付屬書 日人慘殺華僑追悼会成立経緯ニ関スル報告

リシヲ以テ輓近ニ到ルマテ省民一般之ニ関シ殆ト関知セサルカ如キ態度ニ出テ各種新聞紙上ニ於テモ之レカ関係記事全然ナク漸ク十一月末ニ入リテ而カモ僅ニ二三新聞カ北京上海等ノ右ニ関スル新聞記事ヲ転載シタルニ過キサリシカ本月二十日ニ到リテ当地湖南学生連合会ハ突然外交後援会職員ト相連合シ約二十人ノ参会者ヲ得テ同日午後五時ヨリ第一次連席會議ヲ開催シ誤殺事件ニ付審議シ一般輿論ハ依然之ニ関シ左シタル注意ヲ喚起シ居ラサルカ如ク新聞紙モ又平靜ニシテ何等評論ヲ掲載セサレ共其後之ヲ発端ト為シ右関係者ハ屢次會議ヲ重ネ省民ノ排日的氣勢ノ助長ニ力メ漸次其運動具体化シツツアル状態ナリ然レ共此間ニ在リテ看過スヘカラサルハ二十三日湖南学生連合会幹事會議ニ於ケル議決事項中ニ「英米ノ中国内政干渉事項ニ対シテハ広東海關ノ実例ニ依リ一致反對ノ意ヲ全国ニ通電ス」トノ一項ヲ有スルニ在リ之レ輓近一般支那人間ニ澎湃セル概括的排外思想ノ一表現ニ他ナラス彼ノ今夏ノ排日ハ旅大問題ニ依ル日本ノミノ排斥ヲ意味セス右排外思想運動行程ニ於ケル第一歩トシテ現出セルモノニ過キササルモノニシテ勿論当地ニ於ケル排日運動ヲ全部排外ノ一行程ト見做シテ安セン

## 機密信第八一号

大正十二年十二月二十六日

(十三年一月十七日接受)

在長沙

領事 田中 莊太郎(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

関東地方震災ノ際誤殺セラレシ支那人追悼会ニ関

スル件

本件ニ関シ曩ニ拙電第一六〇号ヲ以テ稟報致置候処右成立模様詳細更ニ別添ノ通り及稟報候条御査閱相成度此段申進候 敬具

写送付先 在支公使 在漢口総領事

## (付屬書)

日人殘殺華僑追悼会成立経緯ニ関スル報告

過般東京地方大震災ノ際起レル支那人誤殺事件ハ当地方ニ於テハ時偶々兵變ノ巷ニ在リテ譚軍ハ省内深ク侵入シ来リ湘江ヲ挾ミテ一帶ノ兩岸ニ趙軍ト相對峙シ日夜間斷ナク銃火ヲ交エ奪略殺戮隨所ニ行ハレテ省内ニ於ケル經濟界ハ全ク停頓シ政規混沌トシ省民ノ生命財産ハ不安ニ逼リ民心ハ専ラ之等眼前事項ニ傾注シ他ヲ顧リ見ルノ違ナカリシ際ナ

トスルハ早計ナレ共一面排日ヲ鼓吹シツツアル当地学生等カ一般的排外ヲ以テ其主眼トナシツツアルノ事實ハ之ヲ認メ得ル処ニシテ前述二十三日学生連合会ニ於ケル排英、米ノ条項ハ這般学生等ノ思潮ヲ表証セルニ他ナラサルナリ第一次連席會議ニ於テ支那人誤殺事件ニ関シ議決セラレタル事項左ノ如シ

(一) 本会ヲ名ツケテ日人慘殺華僑追悼会トナス

(二) 組織ハ之ヲ三分シテ文書部、交際部、庶務部トス

(三) 劉撲ヲ籌備主任ニ公選シ李亜農、主天爵、劉士奇、李詠竜、共仲蓀等十余人ヲ各部籌備幹事トス

(四) 經費ハ庶務部ニ於テ概算シ而ル後一般ニ公布シテ寄付ヲ受ク

(五) 籌備処ハ外交後援会内ニ設ケ教育会ヲ追悼会場トス

(六) 追悼時日ハ本月三十日トス

越ヘテ二十二日午後六時ヨリ第一次籌備会ニ於テ公選セラレタル各委員集リテ第二次籌備会ヲ開催、經費其他運動ニ対スル漸次具体的討議ヲ遂ケ大要左ノ如キ議決ヲ為セリ

(一) 經費ハ一時外交後援会ニ於テ負担スルコト

(二) 商会及警察庁ニ対シ当日ハ一般商家住家ハ半旗ヲ掲ケ各

戸内戸ニ「同声哀悼」ノ四字ヲ貼付シテ哀悼ノ意ヲ表スル様通達方稟請ノ事

(三)講演団ヲ組織シ当日ハ街上ニ講演ヲ為ス事

(四)通俗教育館講演部及講演団ニ通知シ当日ハ分途各講演ヲ請フ事

(五)追悼日迄今後毎日午後五時ヨリ各部幹事会ヲ開催スル事  
了リテ左ノ如キ宣言書ヲ各方ニ発送シ各新聞紙ニ広告セリ  
湖南省教育会、商会、工会、農会、外交後援会、律師公會、学生連合会

各学校各報館均鑒、本年九月日人乗地震之変、無故惨殺華僑數百余人、對於生者、復苛加待、言之髮指、思之痛心同人等、為悲痛同胞起見、特發起追悼藉慰冤魂、茲定於本月三十日仮省教育会幻燈場、設靈追悼、尊寵錫輓詞、請先期飭送東長街外交後援会、追悼日人惨殺華僑籌備所、屆期請率全隊或派代表蒞会、追悼無任盼禱、追悼日人惨殺華僑籌備処印 十二月二十二日

第三次籌備会ハ二十三日午後五時ヨリ引続キ開催セラレ別ニ湖南学生連合会ハ同日午前九時ヨリ羣智大学ニ於テ其幹事主任會議ヲ開催シタルカ其議決事項中左ノ如キ二条項ア

御諒知相成度

(付屬書)

外秘第一〇八九号

大正十二年十一月二十四日

神奈川県知事 安河内 麻吉

内務省警保局長 岡田 忠彦殿

コレア丸其他ニ於テ罹災民冷遇ニ関スル件

本月十四日付警外発乙第二九号ヲ以テ御照会ニ係ル首題ノ件ハ調査スルニ左記ノ通りニ有之候条此段及回報候也

汽船コレア丸ハ九月一日ノ震災当日ハ横浜港ニ碇泊シ該港第四号岸壁ニ繫留サレ出帆準備中ナリシガ避難民ノ同岸壁ニ押寄セ来ルヤ同船ハ進テ之ヲ船内ニ收容シ船長以下ノ船員及同船所屬会社東洋汽船会社員等ハ自己ノ家庭ヲモ不顧船内貯蔵ノ糧秣ヲ引出シ避難民ノ食料ニ充テ必死以テ握飯ノ配給負傷者ノ治療ニ奔走シ之ガ救護ニ努力シタルハ極メテ明瞭ノ事実ニシテ彼ノ時ニ際シ偶然ニモ同船ガ当港ニ碇泊シ居タル為メ之ニ避難シ生ヲ完フシタルモノ頗ル多ク延數ニテ示セハ一万二千七名ノ夥多ニ達シ其ノ大部分ハ邦人ナレドモ七十五名ノ支那人五、六十

リタリ

(一)各校ニ通告シ追悼当日ハ遊行講演シ且ツ予メ伝單印刷方ヲ依頼スル事

(二)外交後援会ニ郵報シ各公団ト相連絡シ英米ノ中国内政干涉事項ニ対シ広東海關ノ前例ニ依リ一致反抗スル旨全国ニ發電方依頼ノ事

四八六 十二月二十八日

岡田内務省警保局長ヨリ  
出淵亜細亜局長宛

コレア丸其ノ他ニ於テ罹災民ヲ冷遇シタル事

実ナキ旨并明ノ件

付屬書

十一月二十四日付安河内神奈川県知事発岡田警保局長宛公信写

警外発乙第一五六号

(十三年一月十日接受)

大正十二年十二月二十八日

内務省警保局長(印)

外務省亜細亜局長殿

「コレア」丸其他ニ於テ罹災民冷遇ノ件

本件ニ関シ十一月七日付亜一機密第二三六号ヲ以テ御照会ノ趣了承右ハ別紙神奈川県知事回答写ノ通りニ有之候条右名ノ欧米人モ亦其ノ間ニアリテ等シク同船ノ救助ヲ受ケ無事ナリシヲ得絶大ナル感謝ノ意ヲ表セルモノナリ如斯同船ハ単ニ避難者ヲ船内ニ收容シタルニ止マラズ船内ニアルモノニ対シテハ勿論陸上ニ於ケル罹災者迄モ握飯ヲ運搬シテ之ヲ配給シ救助ニ当レルモノナリ

只猛火ノ襲来愈々烈シク到底其ノ岸壁ニ止マルヲ得ザル危険ノ状態ニ迫レル時ニ於テハ離陸セザルベカラザルヨリ遂ニ岸壁ヲ去リ港外ニ出デ猛火ヲ避ケタリ罹災民陸續シテ避難セル当時ノ事故同船離陸後モ尚同岸壁ニ馳セ来リ其ノ遅カリシヲ嘆キ同船ニ避難スルコト能ハザリシモノハ或ハアリタランモ其繫留中ハ避難者ノ乗船ヲ拒絶シタル等ノ事実ハ全ク無之ノミナラズ離陸後ランチ其他ニテ同船ヲ目掛ケテ避難セルモノハ悉ク之ヲ收容シ救助シタルニ止マラス九月二日出帆ノ予定ナリシヲ同月二十日迄延期シ一悉ク犠牲トシテ避難民ノ收容救護ヲ尽シ其ノ実ヲ挙ゲタルコト尠カラズ故ニ同船ニシテ避難民冷遇等ノ事実ハ之ヲ認メ得ザルトコロナレドモ同船及其他本邦船ニ避難シタル外国人中握飯ノ配給ヲ受クルヤ握飯ニテハ食フニ堪ヘザルニ付麵麴ヲ与ヘヨト迫リ船員ヨリ斯ル

非常ノ場合ニ於テハ麵麴ヲ製造スル暇ナケレバ握飯ニテ我慢セヨト云ハレ其ノ要求ヲ容レラザリシ事案ハ存在セリトノ聞ヘアレド人力ノ限リヲ尽シ救護ノ衝ニ当レリト云フモ過言ニアラザリシ彼ノ場合ニ於テハ又止ムヲ得ザル手段ニシテ冷遇ナリトハ断シ難キモノナルベシ上海発行ノ某支那新聞ハ東京留学ノ支那学生ヨリノ寄稿ナリトテ這次ノ大震災災ニ当リ東京ニ於テハ多数ノ支那人殺害セラレ汽船コレア丸ニ於テハ避難スベク同船ニ泳ギツキタル支那人ヲ突キ落シソノ乗船ヲ拒絶セリ折柄付近ニ碇泊シ居タル米国軍艦ノ為メニ救助セラレタル為メコレア丸ノ船員等ハ不快ノ面持ニテ之ヲ眺メ居タリ云々ノ記事ヲ掲ゲタルヲ同船ガ本月七日上海ニ廻航シタル際同地支店ヨリ聞知シ大イニ驚キ事案ト相違シ懸隔アルヲ説キ弁明書ヲ同支店ニ提示セリトノ趣ナリ

按ズルニ右ノ新聞記事ハ誤報ニアラザレバ捏造モ亦甚ダシキモノノ如ク米国軍艦ノ横浜ニ入港セルハ震災数日後即チ九月五日ニシテ急迫避難ノ状態ニアル罹災民ヲ救助スベキ時期既ニ去リシ事後ニ属シ一顧ノ価値タニ認メ難キ記事タルハ勿論泳ギ着キタル支那人ヲ突キ落シタル等

其後華僑虐殺ニ関スル輿論ハ微温のナカラ時々新聞種ト相成居候処本月二十日当地大嶺東日報ハ別紙ノ如キ伝單ヲ新聞ト共ニ配布シ其翌日二、三ノ新聞ニ転載サレ候ニ付其後ノ輿論ヲ注意致居候モ今日迄別段ノ影響ハ無之候処何等御参考迄訳文添付此段及報告候 敬具

本信写送付先 在支公使

(付屬書)

華僑虐殺ニ関スル伝單和訳文

華僑虐殺ノ為メ国内父老ニ告クル書

日本ノ地震ハ烈焰数日人文物華悉ク一炬ニ付シ海外ノ孤鴻慘トシテ浩劫ニ罹リ輾転流離備サニ窮苦ヲ極ム我カ父老遠地耗ヲ聞キ或ハ囊ヲ解キテ救卹シ或ハ函電慰問ス劫後ノ余生曷ゾ感泣ニ勝ヘン然カモ天災避ケ難ク此レ固ヨリ如何トモス可キナシ最モ痛ム可キモノハ数百ノ僑胞天災ニ死セシテ虐殺ニ慘遭シ生者人ヲ見ス死者屍ヲ見ス残酷酷抑モ何ソ極ラン同人等虎口ニ寄居シテ身自由ヲ失フ惟タ事國權民命ニ関スルヲ以テ斧戈頭ニ臨ムト雖義然シ難シ茲ニ虐殺ノ慘状ヲ敬陳シテ我カ父老昆弟姉妹ノ垂鑒ヲ願フ

欧戰終ヲ告ケ我カ労働界及行商人前後渡東シ其数五千人ニ

ノ事案ハ毫モ認ムル能ハス

大洋丸ニ対スル誹謗ニ至リテハ殊ニ然ルモノニテ同船ノ横浜ニ着セルハ九月七日ニテ震災当日ハ米國ヨリ横浜ニ航行中ナリシヲ以テ之又緊急避難ノ状態ニアリシモノノ救護ニ当リ得シ事案ナキハ極メテ明瞭ニシテ而モ同月九日ニハ横浜ヲ出帆シテ避難民ヲ神戸ニ輸送シ其後モ同様避難者輸送ニ当リ其間内外人ヲ冷遇シタル事案ナキモノナリ

右及回報候也

四八七 十二月二十八日 在汕頭打田領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛

華僑虐殺ニ関シ配布セル伝單内容訳報ノ件

付屬書 右伝單和訳文

公信第一七五号 (十三年一月十日接受)

大正十二年十二月二十八日

在汕頭

領事 打田 庄六(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

華僑虐殺ニ関スル伝單配付ノ件

達ス是ニ於テ日人ニ忌マレ逐客ノ令ヲ下スニ至ル嗣テ王希天君及在東各団体極力運動ノ結果事乃寢ムヲ得王君華工ノ内部ヲ考察シ改良及團結ノ必要アルヲ認メタルヲ以テ僑日共済会ヲ組織シ事務所ヲ東京郊外大島町ニ設ク會員ノ付近ニ寓スルモノ七百余人ヲ下ラズ九月二日即チ地震ノ翌日日本ノ軍警華工ヲ帰國セシムト詐稱シテ僻地ニ誘至シ刀鎗棍棒ヲ以テ撃斃スルモノ百九十余人アリ此レ險ヲ脱シタル黄子連君ノ上海ニ於テ報告スル所ニシテ各新聞亦之ヲ詳載セリ日本某宗教家ノ伝フル消息ニ依レハ大島町ニ一木材工廠アリ四囲繞ラスニ鉄網ヲ以テセルカ災後曾テ支那人数百人韓人二千余人並ニ日本主義者十余名ヲ幽閉シタルカ三日ニ至リ機関銃ヲ以テ之ヲ撃斃シ数千ノ死屍ハ尽ク烈火ニ投シテ焼棄スト然カモ此レ単ニ大島ノ一隅而已ニ就イテ言フモノニシテ其他各地未タ發覺セサルモノ幾何アルヲ知ラス臂ヲ折り胸ヲ洞リ毒殺未タ死セサルモノニ至リテハ更ニ計フルニ勝ヘサルナリ嗚呼慘ナル哉共済会會長王希天君ハ品学兼優熱誠衆ニ拔ス民国七年軍事協約成立スルヤ王君反對尤モ烈シク日人ノ忌ムヲ招キ共済会會長ニ任セラルルヤ中日労働衝突事件毎ニ亀戸署長ノ逆ニ触レ識者之ヲ危ム然カモ



其ノ同胞愛護ノ念ハ卒カニ退ム可カラズ災後交通断絶シ王君急ニ工人ノ消息ヲ探詢セントシ九日自転車ニ乗シテ大島町ニ赴クヤ傷ヒ哉此行奮ニ醜虜ニ授クルニ暗殺ノ機会ヲ以テシタルノミナラス大島町ニ至ルヤ即チ軍警ニ捕ヘラレ亀戸警察署ニ幽セラルルコト三月十二日ニ至リ遂ニ当局命ヲ下シテ鎗斃ス蓋シ我国労働者ノ氏名ハ従来公使館ニ登録ナク其確實ナル数ヲ知ルモノハ王君ノミナリ王君死セズンバ殺害サレタル華人ハ何日カ昭雪ノ日アル可キニ日本当局ハ彼ヲ死地ニ置キタルハ惟ニ之ニ依リテ平日ノ積怨ヲ快シトスルノミナラス永久緘口ノ計ヲ為スモノナリ然カモ華人殘殺事件ハ業ニ既ニ東京ニ傳播シ吾カ新聞亦之ヲ掲載シ事實瞭然固ヨリ掩ハントスルモ掩フ可カラズ我カ公使ノ抗議スル所アリト雖モ日本政府ハ唯タ秩序紊乱ノ為メ誤殺ヲ来シタルモノナリト称シ懲兇賠償ニ至リテハ毫モ言及セス其絶對ニ誠意ナキコト此ニ依リテ見ルコトヲ得ヘシ夫レ華人ノ衣服容貌ハ一見シテ知ルコトヲ得ヘク縦令誤殺アリトスルモ亦少数ニ属シ何ソ数百人ヲ慘殺スルニ至ラン且ツ大島ノ華工ハ僑居多年付近ノ日人尤モヨク之ヲ知レリ況ンヤ数人ノ兇手ハ何レモ直轄軍警ニ属シ明カニ華人タルヲ知り故意

ニ慘殺シテ誤解ト強飾スルニ於テハ誰ヲ欺クコトヲ得ンヤ且ツ既ニ誤殺タルコトヲ知レハ論理上当然兇手ヲ嚴懲スヘキナルニ今之ヲ置イテ不聞不問ニ付スルハ該国当局カ故ラニ庇護スルモノニシテ事跡顯然兇出指便此レ又見易キナリ若シ秩序紊乱ニ事ヲ託シテ責ヲ卸ス可シトセハ則チ庚子ノ条約、南京事件等前例俱ニ在リ焉ソ諱ムコトヲ得ン嗚呼尼港ノ仇殺ハ懸リテ国恥タリ臨城ノ匪劫ハ責未タ休マス日人兵ヲ重ネテ露国ニ臨ム尼港ノ変ハ実ニ自ラ之ヲ招キ故ラニ迫シテ危險ニ走ルモノナリ臨匪ノ却ヲ行フ其目的殺人ニ非ス今帝都輦轂ノ下兵ヲ縱ニシテ僑民ヲ掠殺ス法紀蕩然正義何処ニ在ル其慘ノ人道ナキ遙カニ露兵臨匪ノ上ニ在リ從來日人ノ我ヲ侮ルコト久シク五七ノ耻未タ雪カサルニ虐殺ノ耗頻リニ来ル舟車利便ノ時ニ際シ誰カ能ク国門ヲ出テサラシ死者已ム生者虞ルルニ堪ニ来ル日ハ方ニ長シ禍福曷ソ已マン骨ヲ埋ムノ何地タルヲ知ラス夫レ豈言フニ忍ヒンヤ夫レ武力ハ外交ノ後援ナリ弱国武力ナク恃ム所ハ惟タ民氣ノミ語ニ曰ク困獸猶ホ鬪フト我民弱シト雖モ固ヨリ人類ナリ安ソ能ク低首下心人ノ宰割ニ從ハン望ムラクハ速カニ群情ヲ鼓起シテ共ニ応策ヲ籌ラレ国亡ヒ種滅スルモ公理屈ス

可カラズ請フ政府ハ再接再励聊カモ退縮スルコトナク且ツ友邦ニ遍訴シ以テ輿論ノ裁判ヲ待ツ可キナリ嗚呼事急ニシテ寇深シ義反顧ス可カラズ冤ノ雪カルルヲ待ツ事宜シク遅ル可カラズ願ハクハ我カ父考昆弟姉妹急ニ起ツテ之ヲ図レ

留日華僑虐殺抗議後援会

### 3 レーニン号問題

四八八 九月五日

在浦潮渡辺総領事代理ヨリ  
山本外務大臣宛(電報)

今次ノ震災ニ対スル赤旗紙上ノ不穩当ナル

表現ニ対シ注意ヲ喚起セル件

第六八三号

(九月六日接受)

往電第六八〇号ニ関シ

三日夕刊紙(赤側)及四日県機関赤旗紙ハ何レモ社説ニ於テ今次ノ震災ニ関シ是レ日本労働農民ノ双肩ニ繫ル不幸ナルヲ以テ吾人労働ノ兄弟ニ対スル友誼トシテ自己ノ窮状ニ拘ハラズ之ガ応援ヲ為サザルベカラズ云々トテ如何ニモ今次ノ震災ヲ利用シ日本ノ労役階級ニ対シテ同情スルト同時ニ

稍々自己ノ宣伝ノ色彩ヲ發揮セルヲ認メラルル折柄当地共產黨幹部ガ震災救済ノ名ニ隠レ汽船一、二隻ニ宣伝文ヲ積ミ本邦ニ派遣スルコトニ決定シタリトノ情報ニ接シタルニ依リ四日本官ハ「ハーヴィン」ニ会见往電第六八〇号前段露側ノ救済準備内容如何ト確メタルニ「ハ」ハ目下当地限リテ罹災者ノ救護隊及汽船ノ準備中ニテ其内中央ヨリモ政府トシテ何等具體的指示アル筈ノ旨(「アンドリヤノフ」モ同様ノ事ヲ謂ヘリ)ヲ語リタルニ依リ本官ハ露側ノ好意ハ充分之ヲ謝スル旨並昨日ノ先方申込ミニ対シ既ニ東京ニ電報セルモ連絡杜絶ノ現状上露国側ガ折角好意ヲ以テ汽船ヲ派遣スルモ連絡ナクシテ災害地ニ向ハントスルハ危険ナル而已ナラズ何等行違ヲ生ゼンコトヲ恐ルルニ付汽船差向ニ関シ本官ガ中央ト打合ヲ了スル迄出帆見合セ方ヲ説キタル所「ハ」ハ之ヲ了セリ尚四日赤旗紙ハ号外ニ於テ亜米利加無線其他ノ情報トシテ日本政府ノ滅亡云々ヲ掲載シ居タルニ付当日会见ノ際偶然出會シタル赤旗紙主筆代理「ゴンチャル」(本官数年来ノ旧知)ニ対シ右表題ノ政府滅亡云々並前記社説ノ我政府ニ対シ不穩ナル点ヲ指摘シ全然友誼的ニ「ハ」並「ゴ」ノ注意ヲ喚起シタルニ「ハ」ハ政府